

「農業や地域産品および学研都市ブランドを活かした シティプロモーションによる産業振興・観光振興業務」に おける報告書

confidential

最終報告書

2019年 3月 29日

株式会社 京都銀行
チームラボ 株式会社
TEAM★LAB Inc.



Tel : 03-6811-0527
Email: info@team-lab.com
<http://www.team-lab.com/>

★ 農業や地域産品および学研都市ブランドを活かしたシティプロモーションによる産業振興・観光振興業務概要 <1/2>

本業務に際し、株式会社京都銀行とチームラボ株式会社が共同で下記のような業務分担を行いました。

業務概要 <1/2>		担当
(1)	平成29年度業務における「RESAS（地域経済分析システム）と関連する統計データによる精華町の経済と産業の現状分析および将来へ向けた課題の検討」のフィードバックおよびオープン化の実践	
①	職員向け研修の実施	(株) 京都銀行
②	商工事業者や地域住民向けオープンセミナーの実施	(株) 京都銀行
(2)	農業や地域産品を活かした産業振興・観光振興施策の実践	
①	華工房の持続可能な運営に向けた現状整理・課題の抽出と対応策の検討	(株) 京都銀行
②	6次化商品の開発に向けた地域産品ニーズ調査	(株) 京都銀行
③	6次化商品の開発に向けた事業者の提案	(株) 京都銀行
④	華工房で開発された特産品デザインの見直しおよび町内農産物を活用した加工品・新商品開発に向けた地域住民、学生とのワークショップ	チームラボ (株)
⑤	インバウンド対応(周遊観光)施策の事例調査	(株) 京都銀行
⑥	国内観光客およびインバウンド対応(周遊観光)施策の提案	(株) 京都銀行
(3)	学研都市ブランドを活かしたシティプロモーション（サブカルチャー振興）による産業振興・観光振興施策の実践	
①	地域密着イベント・プロモーション	
	a. KICKお絵かきワークショップ	チームラボ (株)
	b. 科学のまちの子どもたちイベント	チームラボ (株)
②	調査・プロモーション	
	a. WEB作成・SNS連携	チームラボ (株)
	b. 都市部でのPR活動やアンテナショップ等の手法検討および実践	チームラボ (株)
	c. 精華町で先行しているコンテンツとしてのオープンデータ化 (精華町で先行しているコンテンツの拡散手法の検討および実施)	チームラボ (株)

★ 農業や地域産品および学研都市ブランドを活かしたシティプロモーションによる産業振興・観光振興業務概要 <2/2>

本業務に際し、株式会社京都銀行とチームラボ株式会社が共同で下記のような業務分担を行いました。

業務概要 <2/2>		担当
(3)	【続き】学研都市ブランドを活かしたシティプロモーション（サブカルチャー振興）による産業振興・観光振興施策の実践	
③	産業・観光創出	
	a.インバウンド対応(周遊観光)施策の事例調査	(株) 京都銀行
	b.国内観光客およびインバウンド対応(周遊観光)施策の提案	(株) 京都銀行
	c.京町セイカやけいはんな日記等を活用したショートショートコンテンツ作成	チームラボ (株)
	d.京町セイカやけいちゃん・はんちゃん・なあちゃんのグッズ関連の検討	チームラボ (株)
④	将来の雇用・観光創出を目指すための関連産業振興	
	a.精華町内の従業者と学生とのワークショップ	チームラボ (株)
	b.取組みの加速化に向けた新事業の検討 (教育の町としてのブランド構築を軸として検討)	チームラボ (株)

★ 本年度の各業務報告にあたり

本年度の事業開始時に想定していた業務内容において、実施を試みた際に、その他関係者との交渉に時間を要した経緯などがあり、精華町役場・株式会社京都銀行チームラボ株式会社の3者間で協議の上、柔軟に業務内容や予算の付け替え等を実施いたしました。主な変更内容については、下記の通りです。

◆今年度の業務開始当初に想定していた施策案と、想定スケジュール

大分類	施策	内容	2018年				2019年	
			4月	5-7月	8-9月	10-12月	1-2月	3月
農業や地域産品を生かした産業振興・観光振興	教育 × 農業（ジュニアビレッジ案）※末尾APPENDIX参照	農業体験	調査	企画・提案	・協力学校の選定 ・受け入れ農園の選定	作付体験	収穫体験	—
		販売体験	調査	企画・提案	マルシェ連携確認	【(3) b】精華町内の従業者（地元生産者・地元スイーツ店）と中学生を交えて実施する 【(2)】特産品デザイン案WS	ラベル印刷	マルシェ販売体験
シティプロモーション	【(3) c】Youtubeなどを活用したプロモーション手法の検討	動画制作	企画・提案	キャスティング	・ナレーション録音 ・動画制作	・動画アップ	—	—
		【(3) b】アンテナショップ検討 【(3) d】グッズ・お土産	—	—	—	・ジュニアビレッジ案に【(2)】特産品デザイン見直しWSを組み込み、その際に、自由に使用できるコンテンツとして製作した動画を中学生たちに提示する。	ラベル印刷 (中学生が活用すれば)	・マルシェ販売 ・【(3) b】アンテナショップへの陳列を検討
	京町セイカ・けいはんな関連	【(3) c】ショートコンテンツ	【(3) a-1】第1回お絵かきWS開催	—	—	・【(3) a-2】第2回お絵かきWS開催 ・子供たちのアイデアをもとに大江咲さんと【(3) c】ショートコンテンツ作成	WEBサイト掲載	—
		【(3) b】アンテナショップ検討 【(3) d】グッズ・お土産	—	—	—	・ジュニアビレッジ案に【(2)】特産品デザイン見直しWSを組み込み、自由に使用できるコンテンツとして、京町セイカやけいはんな日記関連のコンテンツを中学生たちに提示する。	ラベル印刷 (中学生が活用すれば)	・マルシェ販売 ・【(3) b】アンテナショップへの陳列を検討

◆実際に実施した施策と、実施スケジュール

大分類	施策	内容	2018年				2019年	
			4月	5-7月	8-9月	10-12月	1-2月	3月
農業や地域産品を生かした産業振興・観光振興	教育 × 農業（ジュニアビレッジ案）※末尾APPENDIX参照	農業体験	調査	企画・提案	町役場による検討	受け入れ農園の問題で時期尚早と判断。 ベンディングに。	中止	中止
		販売体験	調査	企画・提案	町役場による検討	受け入れ農園の問題で時期尚早と判断。 ベンディングに。	中止	中止
	若手生産者と京都有名スイーツ店とのヒアリング座談会※末尾APPENDIX参照	ワークショップ	—	—	—	ジュニアビレッジ案のベンディングに伴い企画。華やぎ観光農園の「夏秋いちごの導入検討プラン」を優先して、本案も ベンディングに。	中止	中止
	いちごタウン化構想WS	ワークショップ	—	—	—	上記2案のベンディングを受けて、当初想定していた【(2)】特産品デザイン見直しWSを「 精華町いちごタウン構想未来会議 」に変更。	【(3) b】精華町内の従業者（地元生産者・地元スイーツ店）と近隣大学生（京都精華大学）などを交えた「 精華町いちごタウン構想未来会議 」を実施。	—
シティプロモーション	【(3) c】Youtubeなどを活用したプロモーション手法の検討	動画制作	企画・提案	キャスティング	町役場側でアプローチしていたナレーターをキャスティングできずに ベンディングに。	中止	中止	中止
		【(3) b】アンテナショップ検討 【(3) d】グッズ・お土産	—	—	—	活用できるコンテンツがなくなったので、当初の予算を、【(3) c】京町セイカ・けいはんなショートコンテンツの パネル化予算に変更。	中止	中止
	京町セイカ・けいはんな関連	【(3) c】ショートコンテンツ	【(3) a-1】第1回お絵かきWS開催	—	—	・【(3) a-2】第2回お絵かきWS開催 ・子供たちのアイデアをもとに大江咲さんと【(3) c】ショートコンテンツ作成	・WEBサイト掲載 ・【(3) c】B2パネル化して、役所やATRなどに掲示	—
		【(3) b】アンテナショップ検討 【(3) d】グッズ・お土産	—	—	—	ジュニアビレッジ案がベンディングとなり、グッズ・お土産などに活用する意味合いが薄れたので、当初の予算を、【(3) b】VIVTAロボット教室&ロボコンの規模拡大予算に変更。	中止	中止

（１）平成29年度業務における「RESAS（地域経済分析システム）と関連する
統計データによる精華町の経済と産業の現状分析および将来へ向けた課題の検討」
のフィードバックおよびオープン化の実践

業務概要		担当
①	職員向け研修の実施	（株）京都銀行
②	商工事業者や地域住民向けオープンセミナーの実施	（株）京都銀行

詳細については別冊の報告書をご参照願います。

(2) 農業や地域産品を活かした産業振興・観光振興施策の実践

業務概要		担当
①	華工房の持続可能な運営に向けた現状整理・課題の抽出と対応策の検討	(株) 京都銀行
②	6次化商品の開発に向けた地域産品ニーズ調査	(株) 京都銀行
③	6次化商品の開発に向けた事業者の提案	(株) 京都銀行
④	華工房で開発された特産品デザインの見直しおよび町内農産物を活用した加工品・新商品開発に向けた地域住民、学生とのワークショップ	チームラボ (株)
⑤	インバウンド対応(周遊観光)施策の事例調査	(株) 京都銀行
⑥	国内観光客およびインバウンド対応(周遊観光)施策の提案	(株) 京都銀行

①～③、⑤、⑥の詳細については別冊の報告書をご参照願います。

【(2)④】華工房で開発された特産品デザインの見直しおよび町内農産物を活用した加工品・新商品開発に向けた地域住民、学生とのワークショップ

冒頭p.3「本年度の各業務報告にあたり」でも記載しましたが、当初は、ジュニアビレッジ案に、本件【(2)④】特産品デザイン見直しワークショップを組み込んで、【(3)②c】動画コンテンツや、【(3)③c】ショートコンテンツの活用案を、参加している地元中学生とともに検討する想定でしたが、全ての案がペンディングとなったため、下記の内容に差し替えました。

町内農産物を活用した加工品・新商品開発に向けて「精華町いちごタウン構想」を打ち立て、
【(3)④b】精華町内の従業者（地元生産者・地元スイーツ店）と近隣大学生（京都精華大学）の実施も兼ねたワークショップを開催。

◆今年度の業務開始当初に想定していた施策案と、想定スケジュール

大分類	施策	内容	2018年				2019年	
			4月	5-7月	8-9月	10-12月	1-2月	3月
農業や地域産物を生かした産業振興・観光振興	教育 × 農業（ジュニアビレッジ案） ※末尾APPENDIX参照	農業体験	調査	企画・提案	・協力学校の選定 ・受け入れ農園の選	作付体験	収穫体験	—
		販売体験	調査	企画・提案	マルシェ連携確認	【(3)④ b】精華町内の従業者（地元生産者・地元スイーツ店）と中学生を交えて実施する 【(2)④】特産品デザイン案WS	ラベル印刷	マルシェ販売体験

◆実際に実施した施策と、実施スケジュール

大分類	施策	内容	2018年				2019年	
			4月	5-7月	8-9月	10-12月	1-2月	3月
農業や地域産物を生かした産業振興・観光振興	教育 × 農業（ジュニアビレッジ案） ※末尾APPENDIX参照	農業体験	調査	企画・提案	町役場による検討	受け入れ農園の問題で時期尚早と判断。 ペンディングに。	中止	中止
		販売体験	調査	企画・提案	町役場による検討	受け入れ農園の問題で時期尚早と判断。 ペンディングに。	中止	中止
	若手生産者と京都有名スイーツ店との ヒアリング座談会 ※末尾APPENDIX参照	ワークショップ	—	—	—	ジュニアビレッジ案のペンディングに伴い企画。 華やぎ観光農園の「夏秋いちごの導入検討プラン」を優先して、本案も ペンディング に。	中止	中止
	いちごタウン化構想WS	ワークショップ	—	—	—	上記2案のペンディングを受けて、当初想定していた 【(2)④】特産品デザイン見直しWSを 「精華町いちごタウン構想未来会議」に変更。	【(3)④ b】精華町内の従業者（地元生産者・地元スイーツ店）と近隣大学生（京都精華大学）などを交えた 「精華町いちごタウン構想未来会議」を実施。	—



チームラボと考える 精華町いちごタウン構想未来会議

開催報告書

平成31年2月22日開催

開催場所：精華町地域資源総合管理センター「華工房」



- 開催日 ： 2019年2月22日（金）
- 開催時間 ： 17:00-19:00
- 開催場所： 華工房
〒619-0245
京都府相楽郡精華町 大字下狛小字井堀19
- 参加人数： 28名(うち外部参加者20名)

★【(2)④】 イベントの内容

■ チームラボと考える精華町いちごタウン化構想未来会議

＜当日のアジェンダ(休憩タイム除く)＞

1	精華町いちご現状報告	10分
2	華工房やいちごの紹介	20分
3	精華町いちごタウン化構想に向けてー 1	40分
4	山梨県へ農業移実態	10分
5	精華町いちごタウン化構想に向けてー 2	40分
6	アンケート記入	5分

①背景

スイーツ店が多く集まり、年間約3万人もの観光客が来訪する「いちご農園」がある精華町。

その「いちご産業」をより活性化させる会議を行います。

②ワークショップのテーマ

(前段)

- ・ 精華町と精華町いちごの現状報告
- ・ 華工房特産品や生産物についてのご紹介
→ 華工房で作った特産品の紹介(ジャムの試食)
→ とれたていちごの試食、ジェラート、シャーベットの試食

(テーマ)

精華町を「いちごタウン」としてアピールするためにどうするべきか。

例えば、祝園駅前にインスタ映えする「いちごモニュメント」を設置する！

…など自由な発想で議論を行います。

■ 参加者の内訳

参加組織	参加予定者（内部関係者は敬称略）
華やぎ観光農園	山田代表、中谷様、井上拓様
ひろびろ苺ファーム	井上和也様
いちご生産農家	清水様（野菜ソムリエ）
京都府内のスイーツ店	バイカル学園前店長 永末様
パティスリーヤマダ	1名
フルティエ	1名
御生菓子司ふたば	1名
ポエム洋菓子店	1名

参加組織	参加予定者（内部関係者は敬称略）
ATR	遠藤様
ライフケア創合研究所	代表取締役 湯川直紀様
フロムデータ	代表取締役 藤澤正樹様
京都精華大学	学生4名
農業移住経験者	村田アツシ様
有限責任法人監査法人トーマツ	栗野様
精華町 産業振興課（農業振興）	岩崎、原田
精華町 産業振興課（観光振興）	吉岡、浅野
京都銀行	山岡、佐野
チームラボ	椎谷、海野

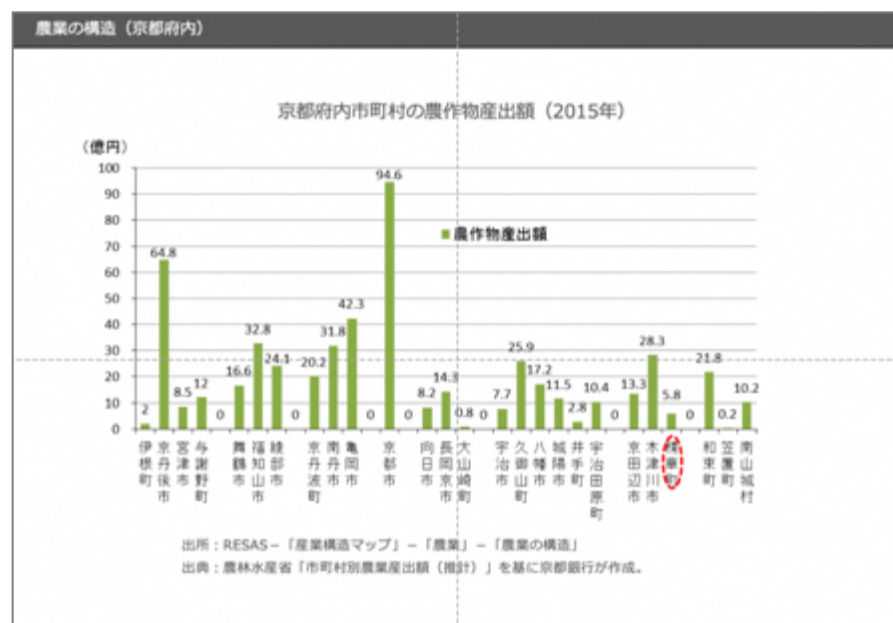
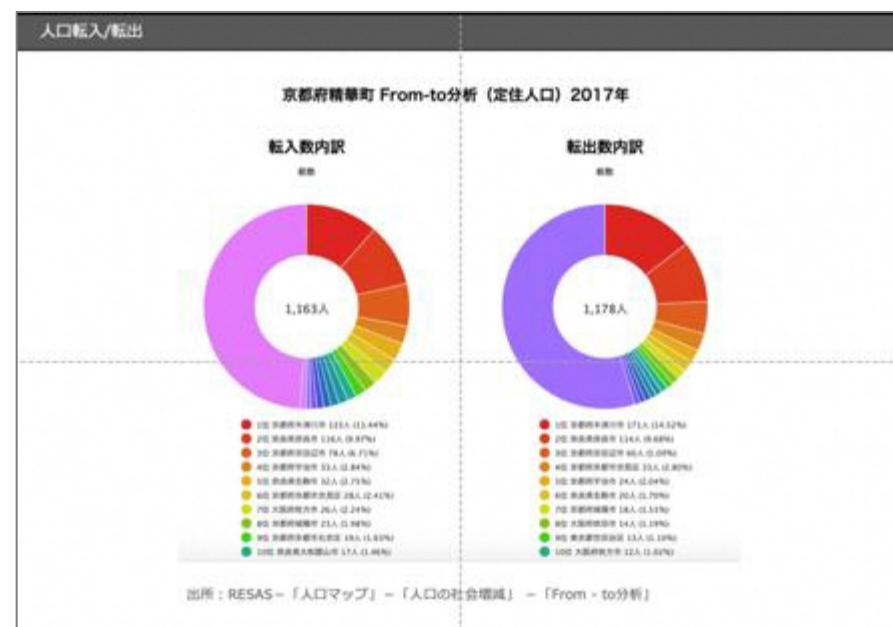
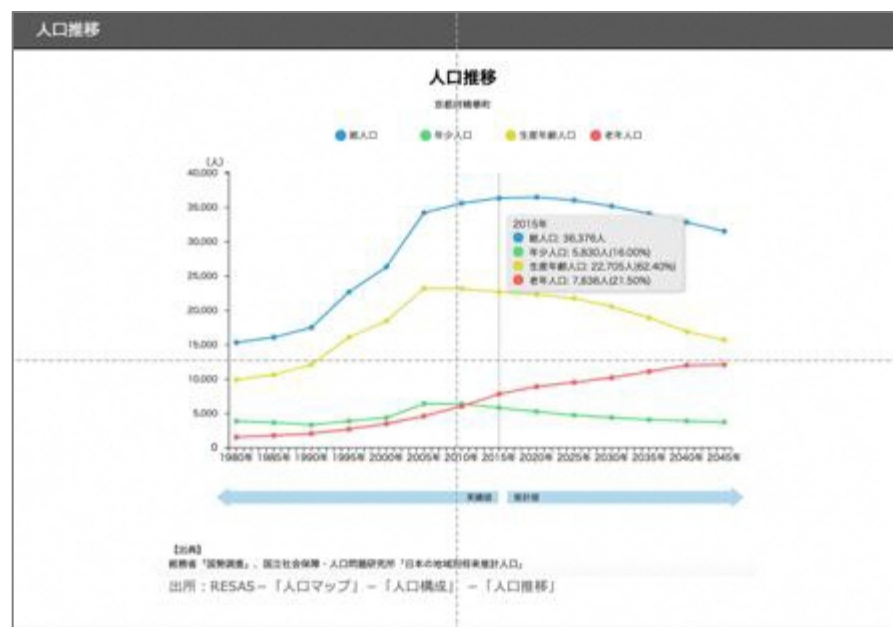
★ 【(2)④】 精華町いちご現状報告 & 華工房特産品やいちごなどを試食

参加者へのインプットタイムとして

- ・インプット資料を用いて、精華町の概要や、精華町いちご産業について説明
- ・華工房にて、いちごを活用して生産しているいちごジャムの試食(他特産品もディスプレイ表示)
- ・精華町内でいちごを生産している、華やぎ観光農園・ひろびろ苺ファーム・清水氏のいちごを試食
- ・華やぎ観光農園・ひろびろ苺ファームが持ち込んだジェラートやシャーベット等を試食



【(2)④】 ワークショップインプット資料1 精華町の情報共有





精華町の強み

毎年いちご狩りに、約3万人観光客が来る。



◆オリジナル開発したモニュメント



◆京町セイカとコラボしたタペストリー



精華町の強み

人口あたりのスイーツ店数が全国的に比べても多い。



精華町の強み

6次化戦略に取り組み易い加工施設がすでにある。

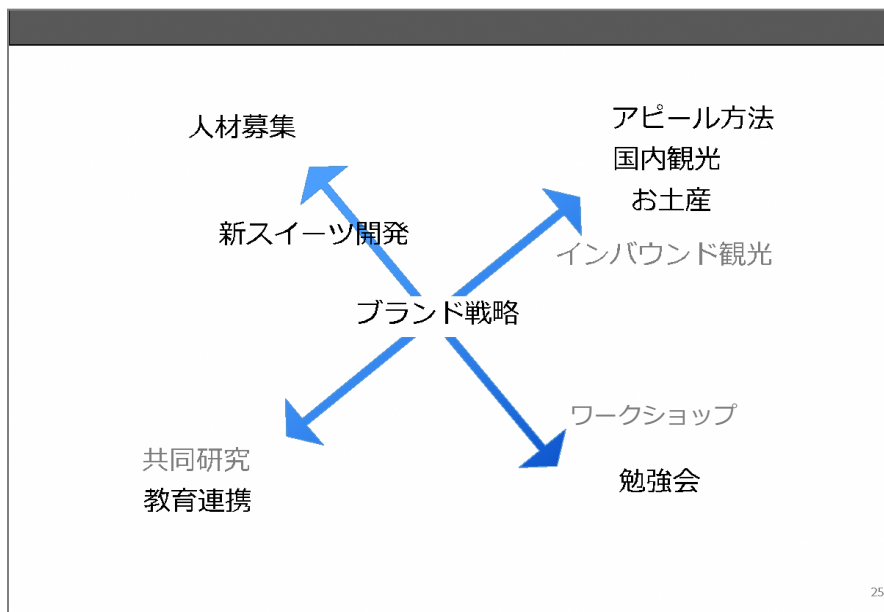
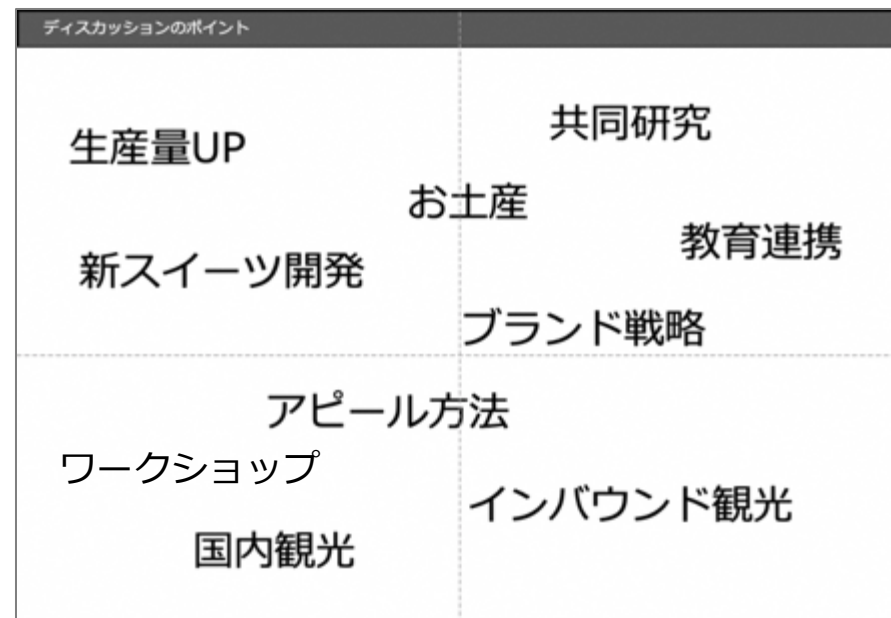


精華町の強み

関西文化学術研究都市。
ATRをはじめとして日本を代表する研究機関が多い。



【(2)④】 ワークショップインプット資料3 ディスカッションのポイントの共有





チームビルディング

チームビルディングの方法：

6つのテーブルに20代・30代・40代・50代・60代以上を均等に振り分けました。年代が上になるほど思い込みが強く、若い人ほど農業のノウハウは知らないもので、若手がテーブルの中心になって新しいアイデアを発言できるように進めました。

アイスブレイク

簡単な自己紹介：

各テーブル内で、自分がどのような属性の参加者で、どのような気持ちでワークショップに参加したかを簡単に説明し合いました。

いちごの感想を記入：

ポストイットの使い方練習を兼ねて、試食したいいちごの感想を記載して、チーム内で共有しあいました。

各自の興味や関心ごとを書き出す

参加者各自の興味や関心ごとを、自らの視点で書き出した後に、チームメンバーとディスカッション。

その際に、下記4つの視点を軸に議論しました。

- ① 課題は何？
- ② その解決方法は？
- ③ 他の地域との差別化は？
- ④ 拡散の仕方は？



★ 【(2)④】 (WS前半) チーム内のアイデアを整理

後半パートに向けて、アイデア出しを実施

- ・ チームごとに、参観者自身を感じる精華町いちごの魅力进行列举しテーブル内で共有
- ・ 各チームで一番共感を得た内容进行発表し、参加者全体に共有



★ 【(2)④】 (WS後半) チームでアウトプットのプランを共創する

■ 精華町の現状、農業移住の実態のインプットを踏まえ

1. 各チームにて、「いつ」「どこで」「誰と誰が」「何をする」のテンプレートに沿ってアイデアを共創
2. ファシリテーターによるフィードバックを行い、最終発表。
3. 発表を踏まえ、全員が各チームのプランに♡マークをつける。
4. 短時間であるが多くの票を集めたアイディアを、優秀アイデアとして表彰。

チーム1



チーム2



チーム3



チーム4



チーム5



チーム6



結果として下記6チームにおけるアウトプットが創出されました。

チーム1: イチゴグランプリ -eat and art-

チーム2: ストロベリーナイト in ビニールハウス

チーム3: 青果と製菓の町 精華町

チーム4: 夏も安心の国産せいかイチゴでスイーツPR

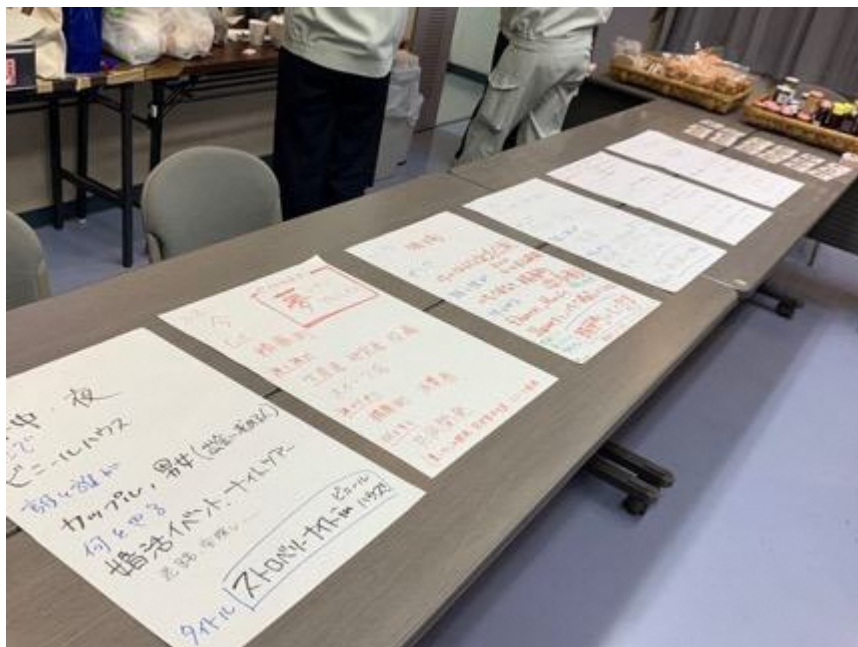
チーム5: 精華町いちご祭! 精華町が日本一のいちご好きだ!!!

チーム6: セイカを出す!夢 いちごプロジェクト

各チームが発表した6案に対して、参加者全員で投票。

(投票ルール)

- ・ 1人1票を投票する
- ・ 各人の判断により、自分のチームに投票してもいいし、他のチームに投票してもOK





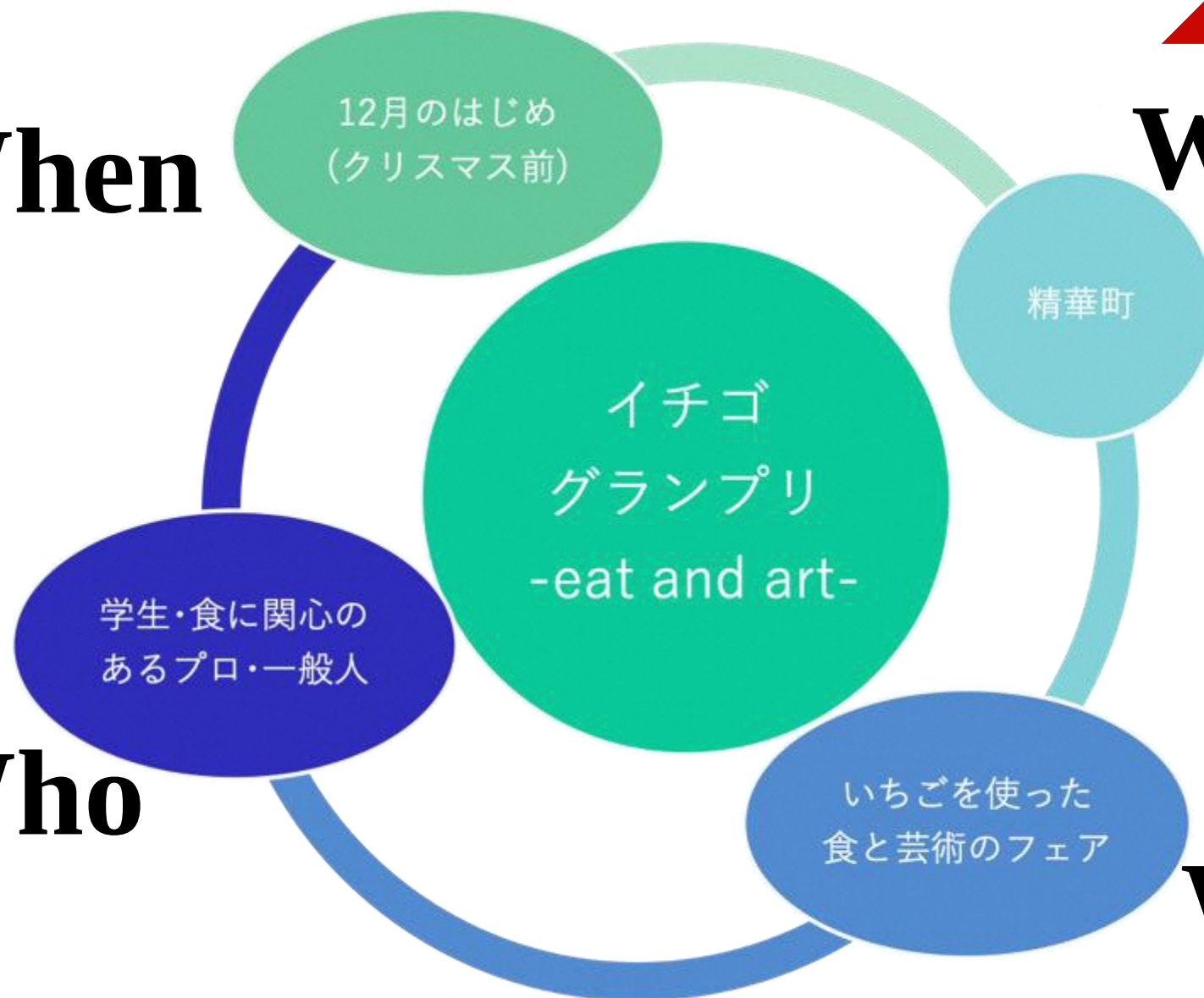
優勝

When

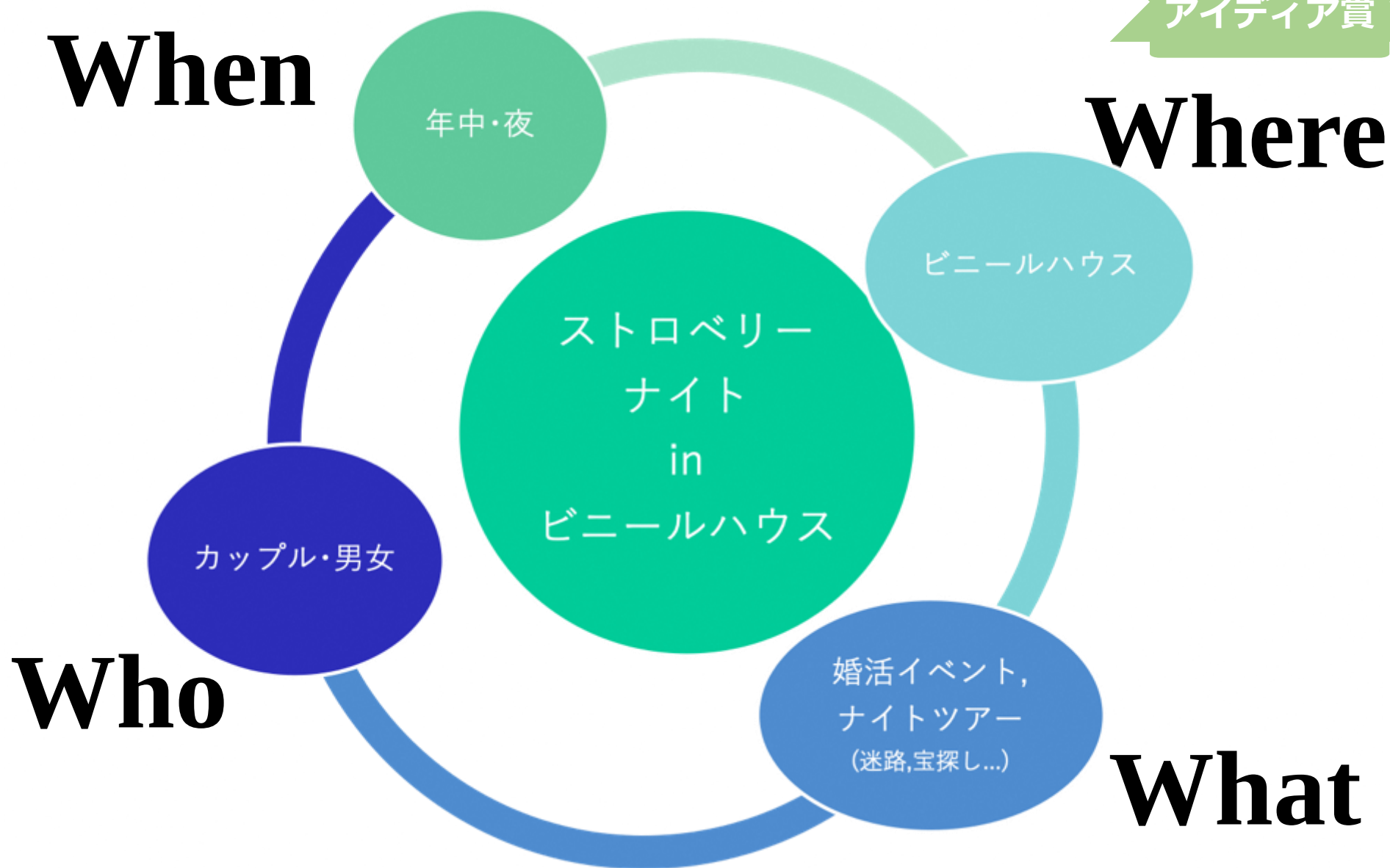
Where

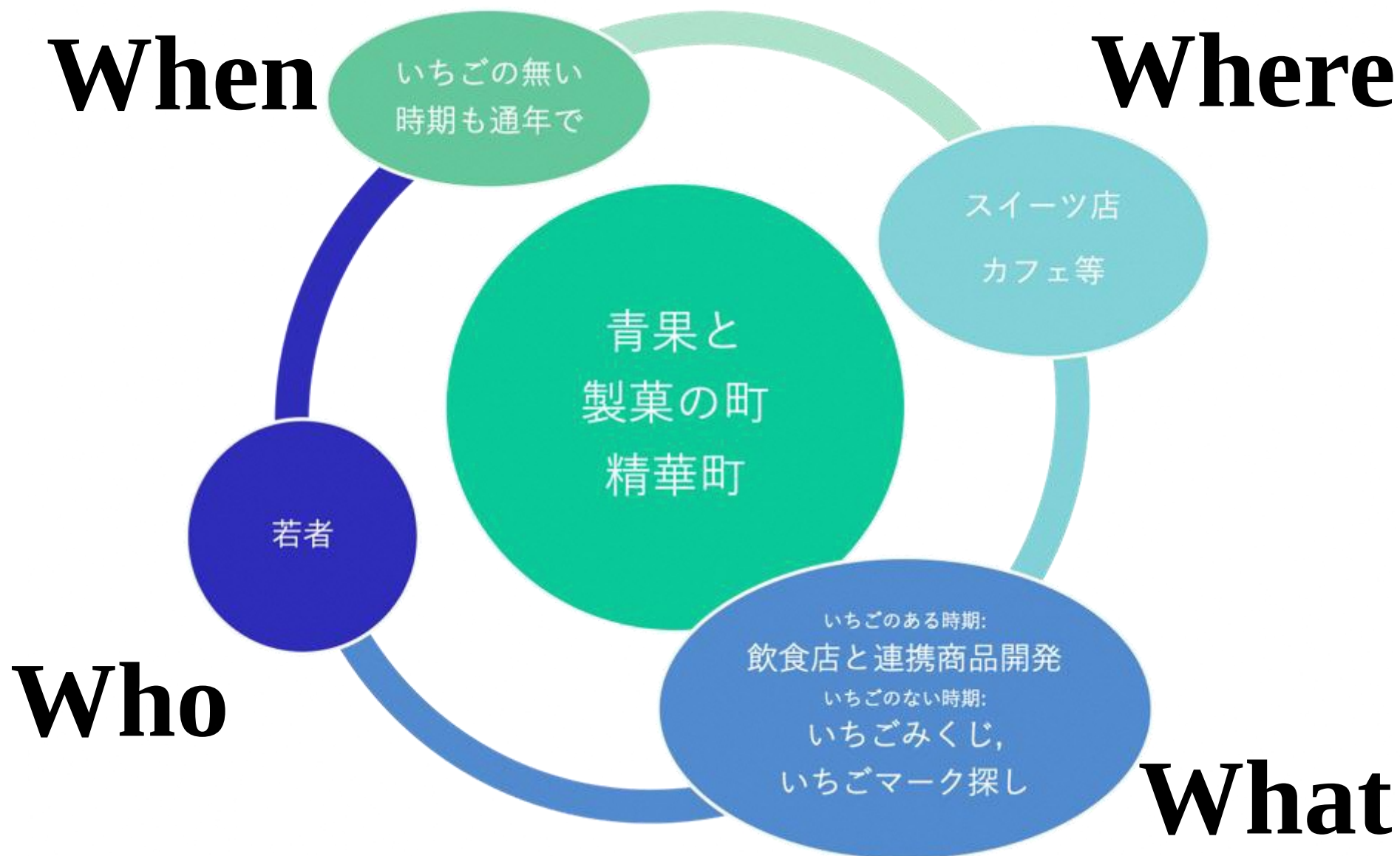
Who

What



アイデア賞



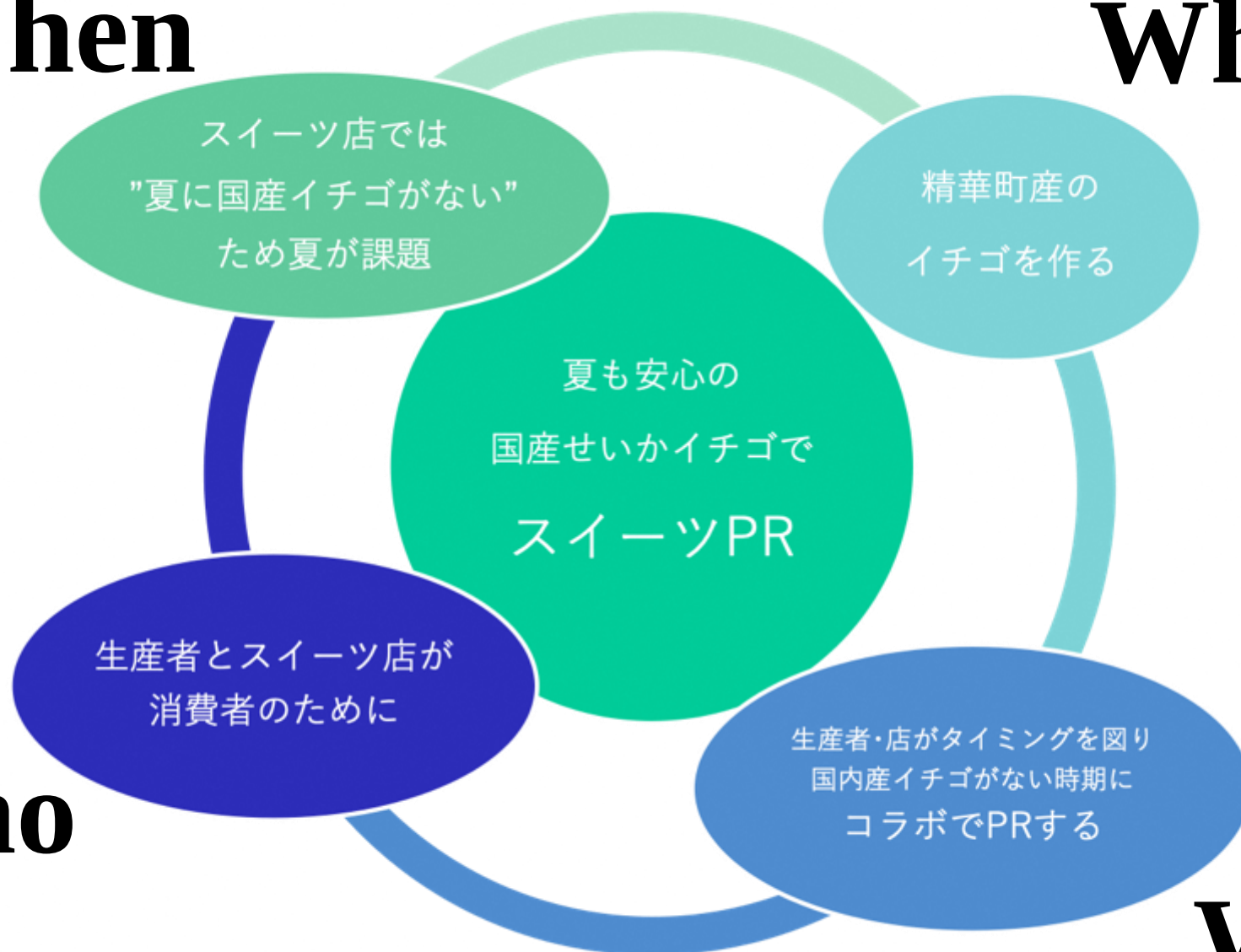


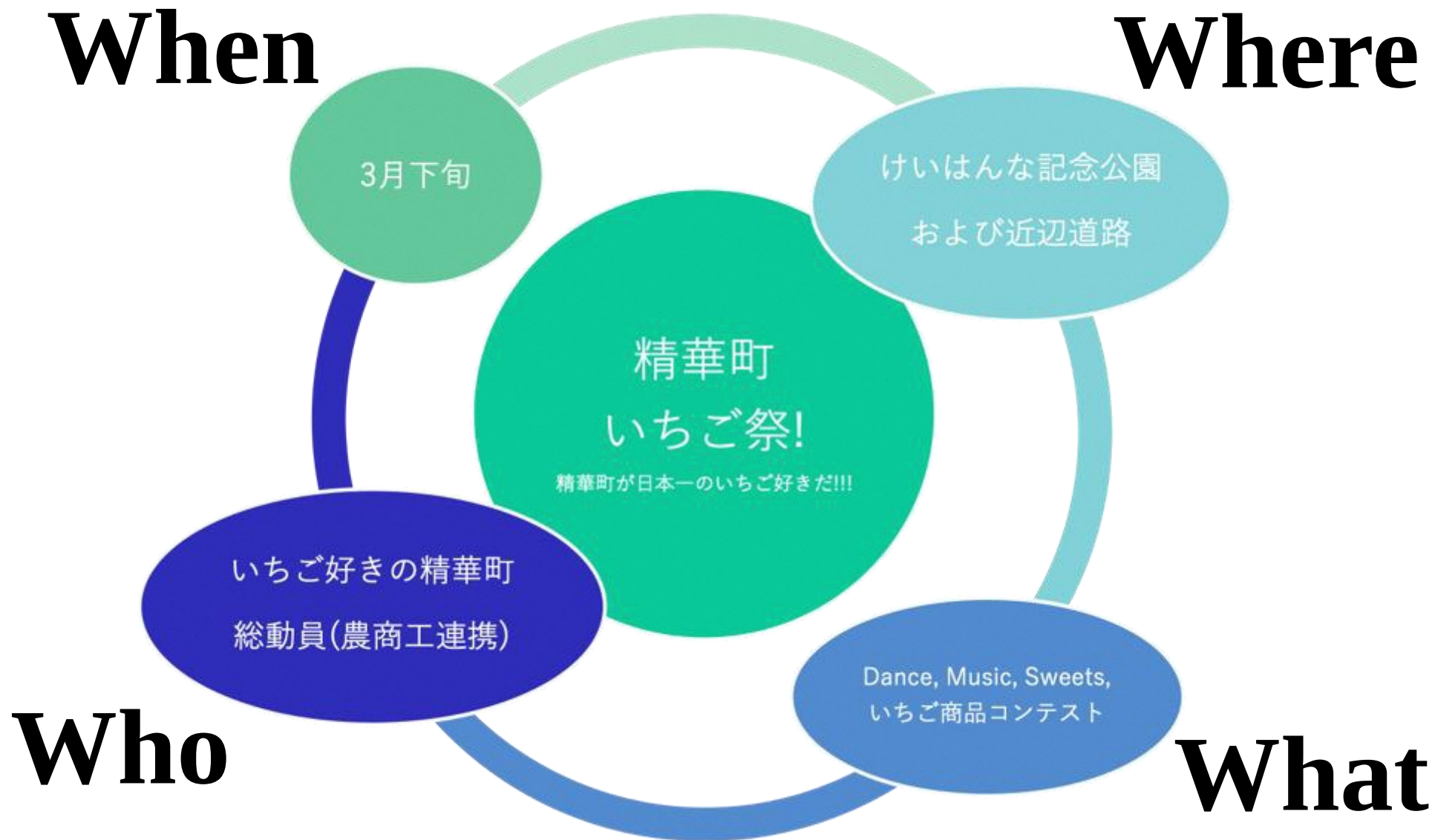
When

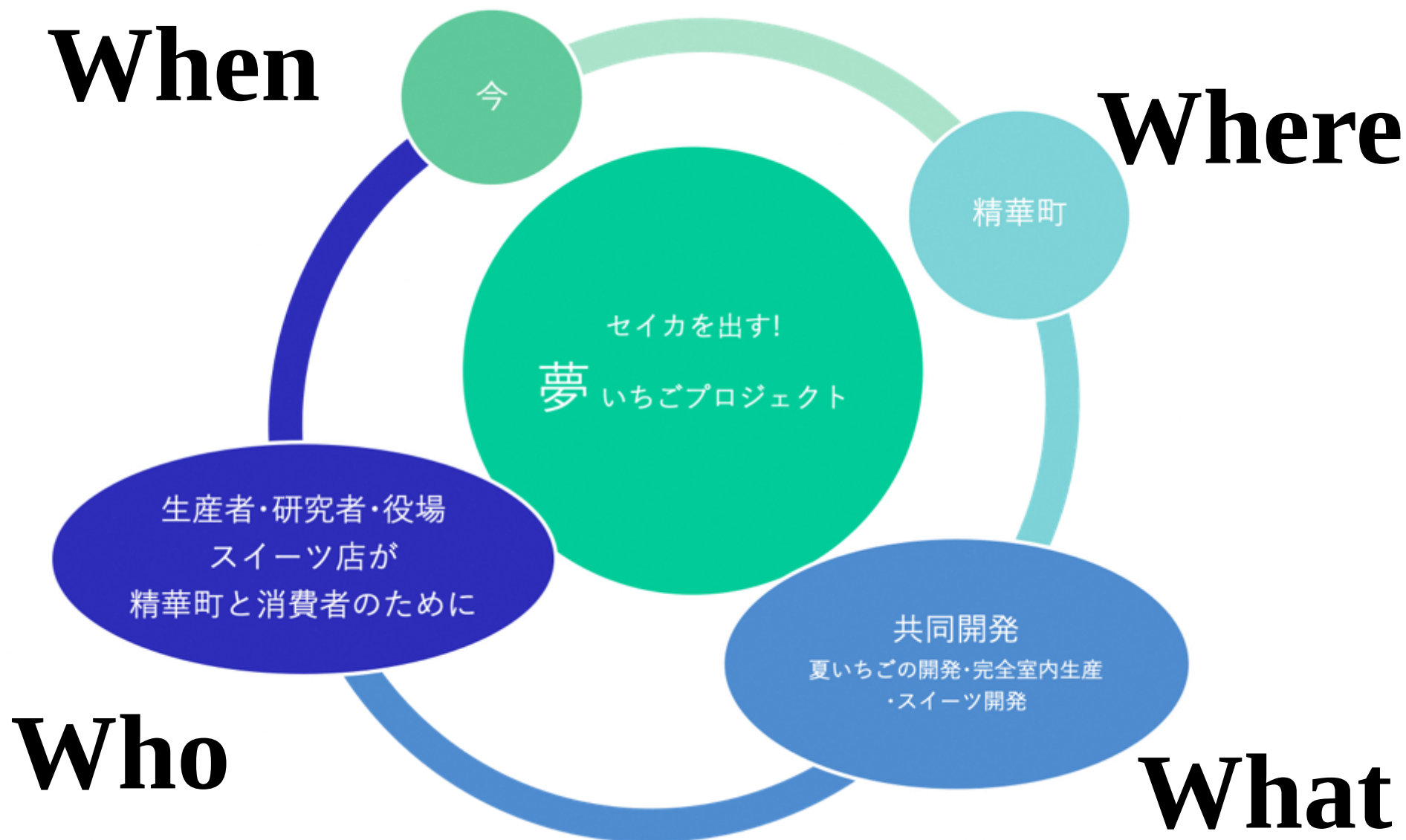
Where

Who

What







(3) 学研都市ブランドを活かしたシティプロモーション（サブカルチャー振興）による産業振興・観光振興施策の実践

業務概要		担当
①	地域密着イベント・プロモーション	
	a. KICKお絵かきワークショップ	チームラボ（株）
	b.科学のまち子どもたちイベント	チームラボ（株）
②	調査・プロモーション	
	a. WEB作成・SNS連携	チームラボ（株）
	b.都市部でのPR活動やアンテナショップ等の手法検討および実践	チームラボ（株）
	c.精華町で先行しているコンテンツとしてのオープンデータ化 (精華町で先行しているコンテンツの拡散手法の検討および実施)	チームラボ（株）
③	産業・観光創出	
	a.インバウンド対応(周遊観光)施策の事例調査	(株) 京都銀行
	b.国内観光客およびインバウンド対応(周遊観光)施策の提案	(株) 京都銀行
	c.京町セイカやけいはんな日記等を活用したショートショートコンテンツ作成	チームラボ（株）
	d.京町セイカやけいちゃん・はんちゃん・なあちゃんのグッズ関連の検討	チームラボ（株）
④	将来の雇用・観光創出を目指すための関連産業振興	
	a.精華町内の従業者と学生とのワークショップ	チームラボ（株）
	b.取組みの加速化に向けた新事業の検討 (教育の町としてのブランド構築を軸として検討)	チームラボ（株）



4/14 KICK 親子お絵かきワークショップ 実施報告書

チームラボ主催 「けいはんな親子お絵かきワークショップ」



京都府精華町 けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）にて、チームラボによる、親子でけいはんな学研都市の未来をお絵かきするワークショップが開催されます。

◆実施日時：日時：2018年4月14日（土）14時00分～16時00分（13時45分 受付開始）

◆開催場所：けいはんなオープンイノベーションセンター（K I C K）



京都府精華町 けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）にて、チームラボによる、親子でけいはんな学研都市の未来をお絵かきするワークショップが開催されます。

◆実施日時：日時：2018年4月14日（土）14時00分～16時00分（13時45分 受付開始）

◆開催場所：けいはんなオープンイノベーションセンター（K I C K）

◆募集人数：先着順で学研都市に居住、または働く保護者とその子ども10組20名
定員を満した時点で募集は締め切りとなります

◆企画運営：チームラボと京都精華大学未来デザイン研究メンバー

「けいはんな学研都市の未来を親子で考えてお絵かきしてもらいます。」
参加者の皆さま全員に参加賞を用意しています。

★お申込みは下記URLから！

<https://goo.gl/forms/EcCKQmmol4AeGZfO2>

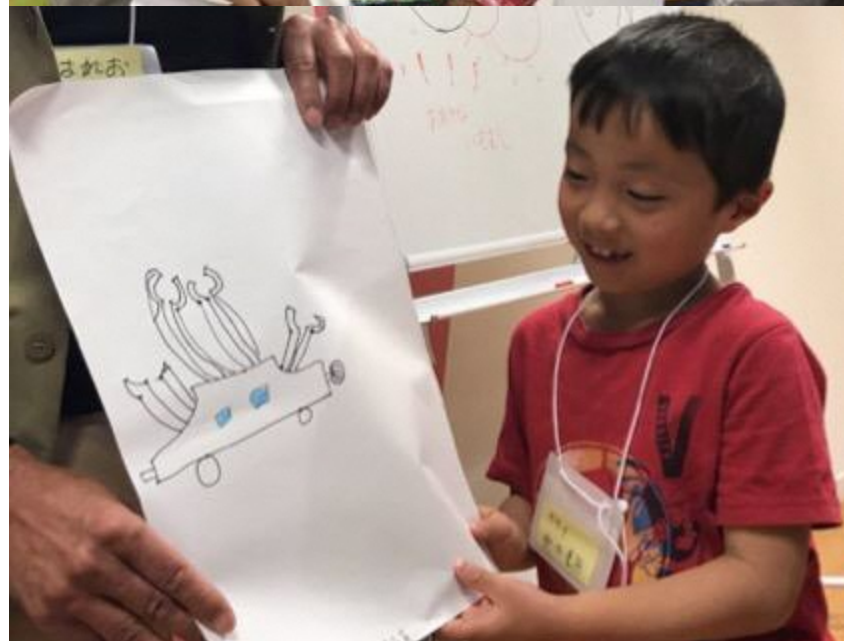
【応募条件・注意事項】

小学1年生～6年生までのお子さまとその保護者の組み合わせでお申込みください

学研都市に住み、または働く保護者に限定で行われます。
お子さま単独での参加は不可とさせていただきます。
乳幼児、未就学児童のご参加は不可とさせていただきます。

当日のタイムテーブルは以下の通りです。

Part 1:		
14:00 -14:40	はじめに (15分)	- 挨拶(学研都市の紹介・大きくなったらどんな街になってほしいか) - お父さんからお子さんに科学の街のインプット
	テーマでお絵かき (25分)	1.こんなものが空を飛んでいたら 2.こんなものが道路を走っていたら 3.こんな建物があったら - お子さんがみんなに向かって考えたものを発表。お父さんとアイデアの組み合わせを会話する。
Part 2:		
14:50 -15:10	お絵かきレクチャー	京都精華大学「セイカ未来」メンバーによるレクチャー
15:10 -15:40	お絵かき開始	具体的に誰に使ってほしいか、どんなときに使うのか、使うと何が起きて、どういった喜びが生まれるのかを考え、写真で撮ってみんなに見せびらかしたくなるような絵を描く。
15:40 -15:50	発表	それぞれ考え、描いた絵をお子さんに発表してもらい、終わった順にホワイトボードへ貼り出す。
15:50 -15:55	評価	- 発表されたアイデアをお子さん同士で評価し合う - 自分のよいと思ったアイデアに赤いシールを貼る
15:55 -16:00	終わりに	終わりの挨拶、チャットボットアンケート、記念撮影







チームラボ×京都精華町
親子お絵かきワークショップ

日時：2018年4月14日（土）
場所：けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）

親子お絵かきワークショップのアイデアをコラージュしました。

1枚目は

- ・空飛ぶ鉛筆
- ・きせかえスーツ
- ・指キタスマホ
- ・スーパーけいはんな
- ・遊びながら学べる学校
- ・自動防犯ブザー
- ・どこでも自動車
- ・しんかんせんヘリコプタ

2枚目は

- ・どこにでもいける車
- ・私のリクエストパーク
- ・AIゆうれい
- ・空飛ぶ龍
- ・おうち変身工場
- ・無限バック



4/14親子お絵かきWSの
アイデアをコラージュ

- ・ どこにでもいける車
- ・ 私のリクエストパーク
- ・ AIゆうれい
- ・ 空飛ぶ龍
- ・ おうち変身工場
- ・ 無限バック

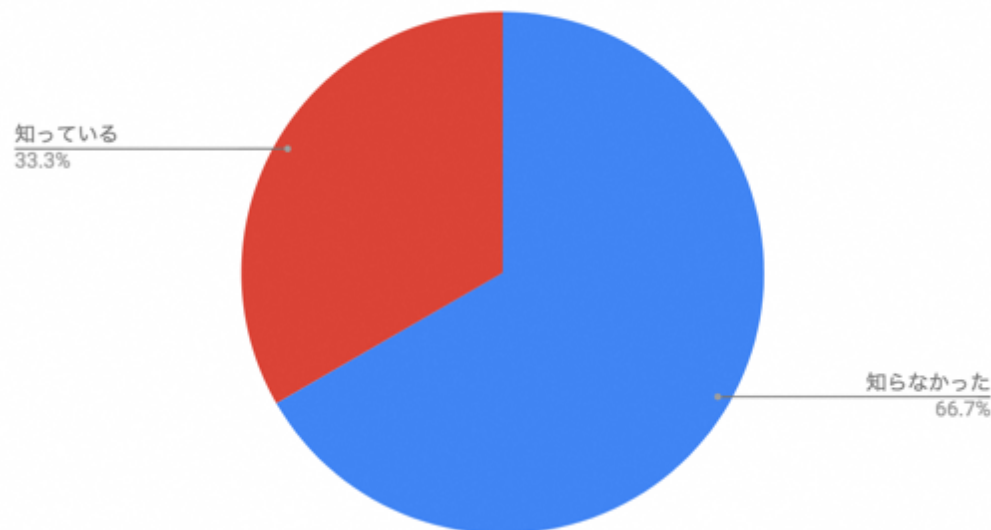


回答数：7件

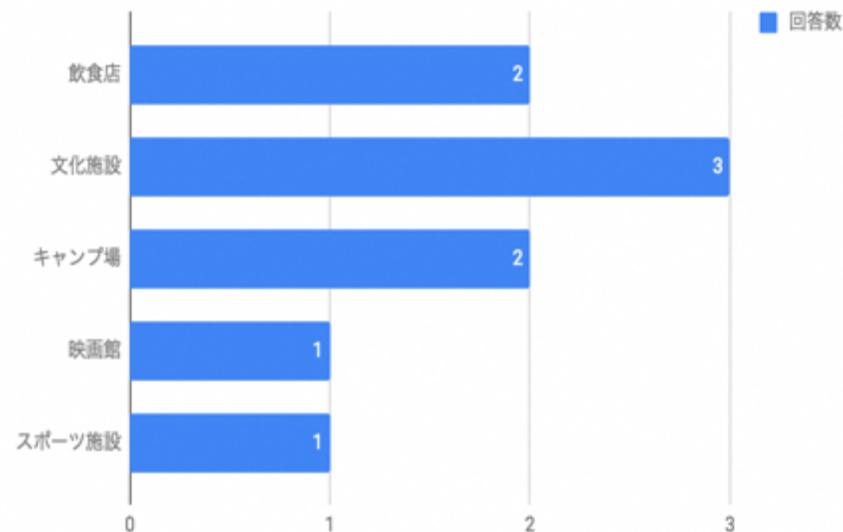
最後まで回答：3件

回答方法：両親がお子さんに質問を読み上げ、お子さんがそれに答える

精華町の広報キャラクター、京町セイカを知っていますか？



お家の近所であつたらいいと思うお店はどれですか？



精華町の好きなところを教えてください(自由筆記)

- ・ 買い物がしやすい。
- ・ 街がきれい、自然がある、友だちがたくさんいる
- ・ 設備がいい 自然がある

データとして有効な回答数には達しなかったが、回答していただけた参加者は全員「次回も同じようなイベントがあつたら参加したいと思いますか？」の質問に対して「はい」と答えた。



学研都市の未来ワークショップ



10/28（日）研究者と親子で考える未来の学研都市



14時～17時@KICK：親子10組20名程度（学研都市で働く親とそのこどもたち）
サポート：けいはんな若手研究者（ATR・オムロン・パナソニック4名）



親子お絵かきWSの目的

このワークショップはけいはんな学研都市で働く大人と精華町の小学校に通う子どもたちが実現性のある未来の町を形にするワークショップです。

子どもたちは短い時間で、他の子供達のもつ情報を共有し3回の発表を行います。一人で考えるよりみんなで考える多様性とクリエイティブの関わり方を体験することで、社会との関わりを学ぶことができます。実際に初回～最終発表を通して子どもたちの自信が声の大きさに変わっていく変化を大人たちは一緒に体験する事ができます。家族だけ・学校だけでは体験できない、町や地域の大人と一緒にコトづくりすることを目的としたワークショップです。

ルールは子供の意見は全て正解で間違いはない。

親は否定をしてはいけない、実現性を高めるヒアリングをしてあげる。

決められた時間を守る（出来ていなくても発表する）



みんなが大きくなったらどんな学研都市になっていてほしいか



京町セイカちゃん



けいちゃん



はんちゃん



なあちゃん

わくわく精華町けいはんな日記

Seikacho.love

<https://www.seikacho.love/>



学研都市の未来ワークショップタイムテーブル①

13 : 45 受付 : テーブル案内

14 : 00 学研都市研究者の紹介

14 : 15 お絵かき教室開始

チームラボ・けいはんな日記の紹介

挨拶(学研都市の紹介・大きくなったらどんな街になってほしいか

<https://www.teamlab.art/jp/w/sketchtown/> お絵かきタウン動画

お父さんから、お子さんに科学の街に関してディスカッション

1.空飛ぶもの 2.こんなものが道路を走っていたら

3.こんな建物があったらおもしろい 4.こんな学校や図書館があったら

例えば : 前回のアウトプットコラージュみせる

聞いたものをポストイットに書き出す

子供がみんなに向かって考えたものを発表(30秒×10組)

お父さんとアイデアの組み合わせを会話

14 : 55 休憩



学研都市の未来ワークショップタイムテーブル②

15 : 05

2回目 保護者は誰に使ってほしい？来てほしい？具体的なターゲット

- ・どんな状況？(朝・夜・夏・冬)
- ・どんなことが起きるか、誰がどんなふうに使ったら喜びが生まれるか
- ・写真で撮ってみんなに見せびらかしたくなるような絵を描いてください

発表(一人30秒)

研究者からのレビュー

大人の役割（子供から聞き出したものをテキストでまとめる

1. アイディアのタイトル（短くて内容のわかりやすいもの）
2. ターゲット（誰につかってほしいの）
3. 状況（いつ・どんなときに）
4. 必要とされる理由（課題が解決して、新しく生まれるメリット）
5. アイディアの具体的な機能（使うテクノロジー・利用頻度・継続性）

3回目 最終発表(30秒)（終わったものから壁に張り出す）

- ・評価：10分の審査(参加者全員)
- ・一巡目(10分)見て回る
- ・二巡目赤シール貼る

けいはんな研究者からのレビュー

記念写真



親子お絵かきワークショップ子どもの役割

子どもの役割

学研都市・自分の課題（ここが不便・不満）

学研都市・自分の好きなところ（ここが便利・好き）

自分たちが大きくなったら学研都市がどんな街になっていてほしいか

- ・ 会話から、ぱっと浮かんだものをききだす（親）
- ・ 子供がみんなに向かって考えたものを発表(30秒×25)
- ・ お父さんとアイデアの組み合わせを会話
- ・ 誰に使ってほしい？ 来てほしい？ 具体的なターゲット
- ・ どんな状況？(朝・夜・冬)
- ・ どんなことが起きるか、誰がどんなふうにつかったら喜びが生まれるか
- ・ 写真で撮ってみんなに見せびらかしたくなるような絵を描いてください

こんなものが空を飛んでたら

こんな車が走っていたら

こんな建物があったら

こんな学校や図書館があったら

こんなロボットがあったら

こんな農園があったら



親子お絵かきワークショップ大人の役割（研究者サポート）

大人の役割（研究者サポート）

会話から、子供のアイデアを簡単にポストイットに書き出す

1. アイディアのタイトル（短くて内容のわかりやすいもの）
2. ターゲット（誰につかってほしいの）
3. 状況（いつ・どんなときに）
4. 必要とされる理由（課題が解決して、新しく生まれるメリット）
5. アイディアの具体的な機能（使うテクノロジー・利用頻度・継続性）

研究者の視点

実現するためのテクノロジーの裏付け

アイデアがどの枠にはいるのか

- ・ 都市環境（コミュニケーション）
- ・ 交通・インフラ
- ・ 農業・健康
- ・ 環境エネルギー
- ・ 教育文化（学校・図書館）
- ・ AI・ロボット







Google フォト <https://photos.app.goo.gl/YAQ7WKusHuQhBuxA6>



参加したATRバイオ研究者：遠藤皐月さんの感想

アイディアの実現性に関して：小学校の学年が上がると「どうせできないだろうし……」という「大人の部分」が出て来るとおもうので、実現性の裏付けを研究者がしてあげると「本当にできるんだ！」や、心の底からの「すげー」がでてくるかなと思いました。

ワークショップの最後に出たアイディアをおもろ祭りで作るってなったら、面白いと思いました。実際のおもろ祭りに出すのは、今回は難しいのかも知れませんが、アイディアの中で作れそうなものがあって、それを大人が本気で作るとなったらこうするっていうのも見せられたら、いいなあと思いました。

教育大出身なので、子どもに実験を教える企画などありました。実際に、実験中は静かにたんたんとしていた子でも物が出来上がったら、嬉しそうだったことを覚えています。

今回は絵が出来上がりなので、紙の大きさを大きめにして、作った感のインパクトをだせば充実感が増えるかなと思いました。もしよければ、準備からお手伝いさせていただきたいです。



2019/1/26 VIVITA「ロボット教室」 「ロボコン」実施報告書



タイトル VIVITAロボット製作教室(けいはんな科学体験フェスティバル内イベント)

開催日 2019年1月26日(土) 終日

会場 ①ロボット教室：5階中会議室
②ロボットコンテスト：アトリウム内

参加料 無料

参加対象者 京都精華町周辺の子ども達

参加定員 10名(父兄参観)

主催 精華町役場

共催 VIVITA株式会社

開催趣旨 子ども達が主体的に活動し、競い合う「VIVITA ROBOCON」コンテンツを使い、精華町周辺の子どもたちと保護者のプログラミング教育に対する意識を高める。

運営 株式会社チームラボ <https://www.team-lab.com/>

当日のタイムテーブルは以下の通りです。

①ロボット教室

10:00 -10:30	ROBOCONの説明	miniROBOの実演や動かし方のレクチャーを行う。
10:30 -11:30	製作	miniROBOのアーム設計、製作、miniROBOのプログラミング
11:30 -12:00	調整	動作検証、チューニング

②ロボコン体験

13:00 -14:00	準備	会場準備・リハーサル
14:00 -15:30	ロボコン開始	- VIVITA ROBOCON スタート - 出場者競技（8分×10名）
15:30 -16:00	まとめ	総評、表彰



時 間	項 目	内 容	補 足
10:00 ～	オープニング	・ VIVITA ROBOCON の説明。これまでの実績を動画で説明？ ・ エントリー機体を使った実演を行う。（仕組みの理解）	説明用スライド プロジェクター マイク・音響
10:15 ～	レクチャー	・ 10機のエントリーロボットを事前に準備。そちらをカスタマイズして、今回の精華町のオリジナルコースにチャレンジする ・ カスタマイズできる要素を説明。	説明用スライド プロジェクター マイク・音響
10:30 ～ 12:00	ロボット製作	・ ロボット本体（事前準備） →ギアボックス、本体部分は事前に作っておく（10台分） →タイヤはタイプを選べるように準備する（タイヤ大小、キャタピラ） ・ アーム製作（当日製作） →アームは設計図とタイプを事前に用意 →レーザーカッターを使って製作する。 （挟む、かぶせる、吸い込むの3種類） ・ ロボットすべての製作ではなく、2時間で製作可能なアーム部分のみをメインで行う。VIVIPROGRAMMERとVIVIPARTSを使用する。 ・ VIVIDESIGNERとレーザーカッターを使用して部品を加工する。	説明用スライド プロジェクター マイク・音響 VIVIPROGRAMMER VIVIPARTS レーザーカッター VIVIDESIGNER



VIVIDESIGNER を使ってみよう

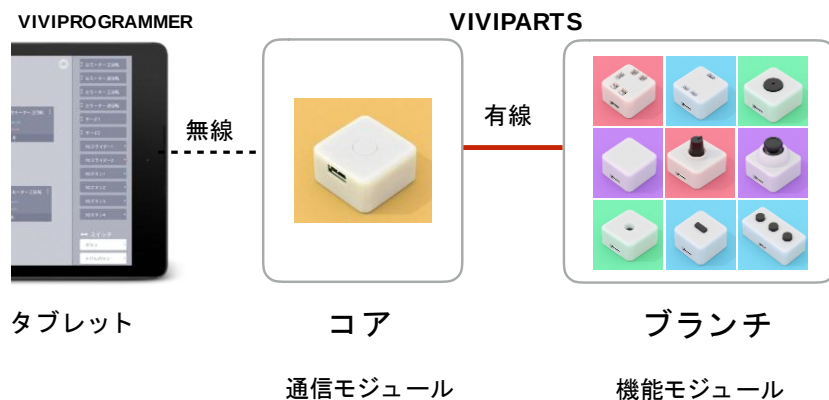


図形のパラメータ



x: ヨコ位置
y: タテ位置
w: 横幅
h: 縦幅

VIVIPARTSを使う



サーボを駆動してみよう



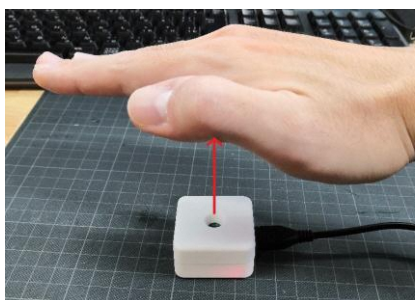


スライダーでモーターを回そう

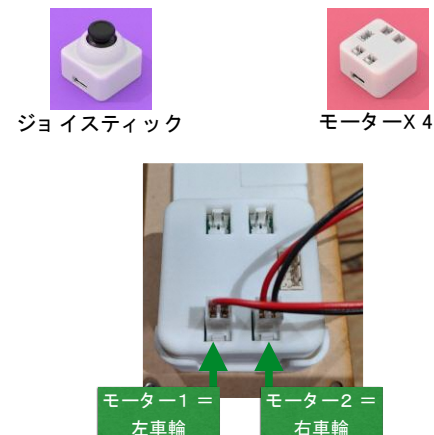


測距センサー

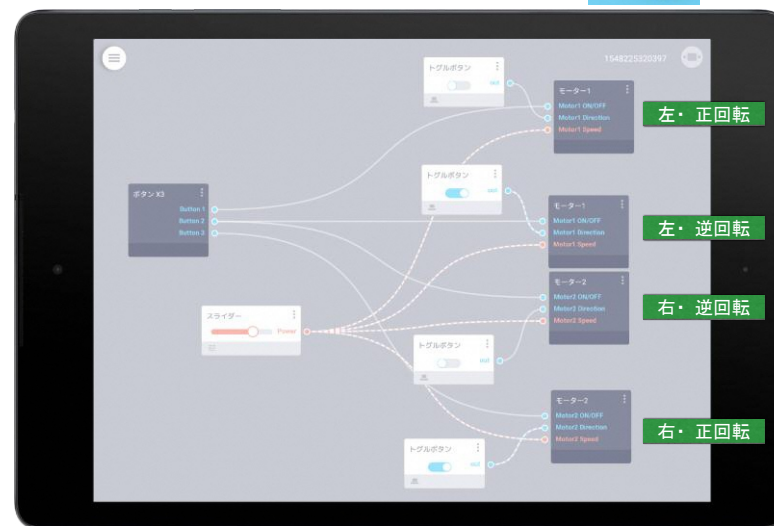
センサー（穴が空いている位置）から、
物体までの距離に応じて出力がでる。
物体までの距離が近いと小さい値を、距離が遠いと大きい値が出る。

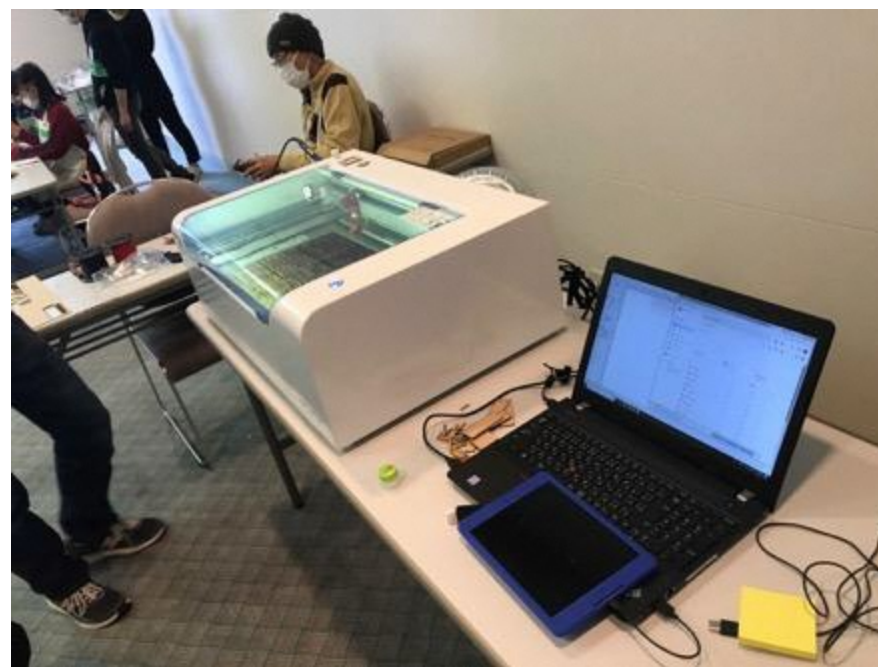


ジョイスティックで駆動してみよう



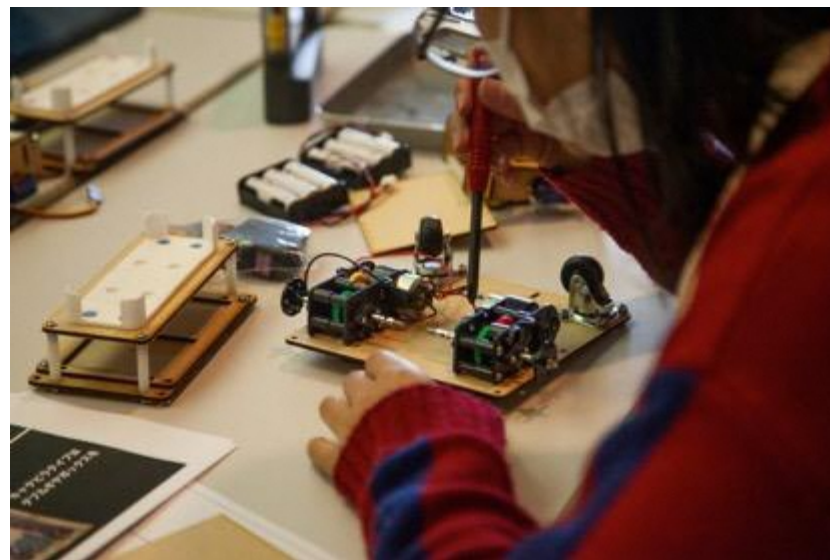
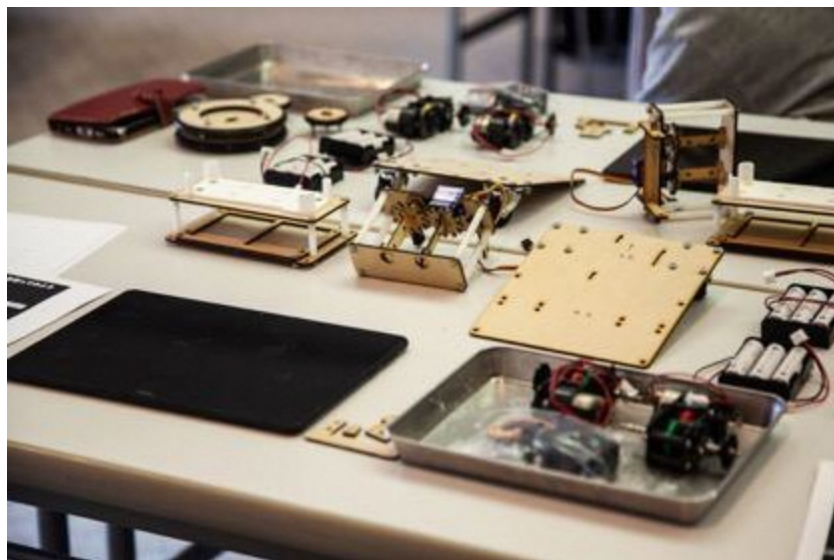
例：ボタンX3で駆動





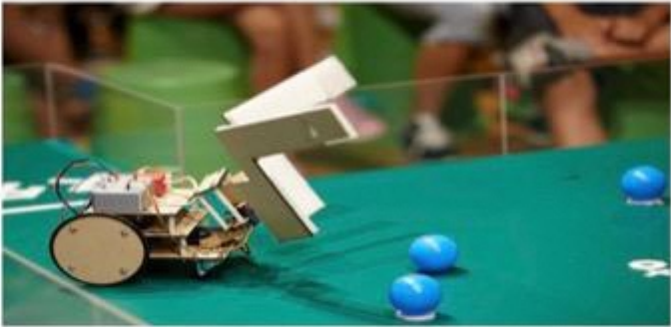


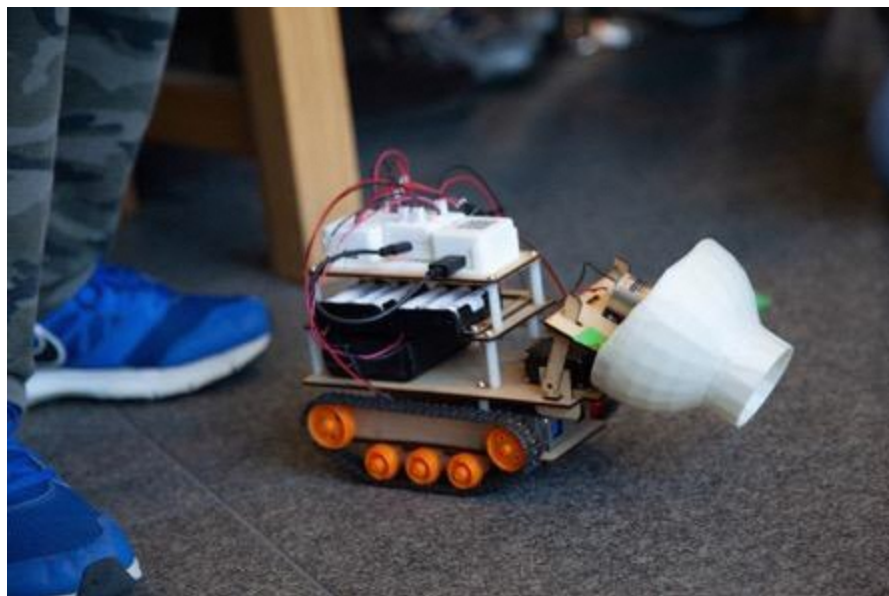
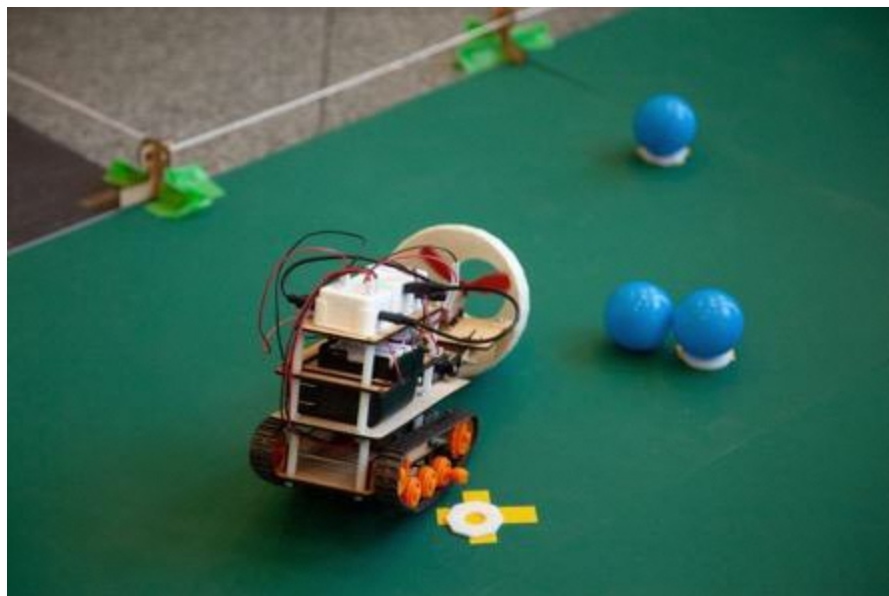
ロボット製作教室





【(3)① b】 2019年1月26日 「VIVITAロボットコンテスト」 当日のタイムテーブル

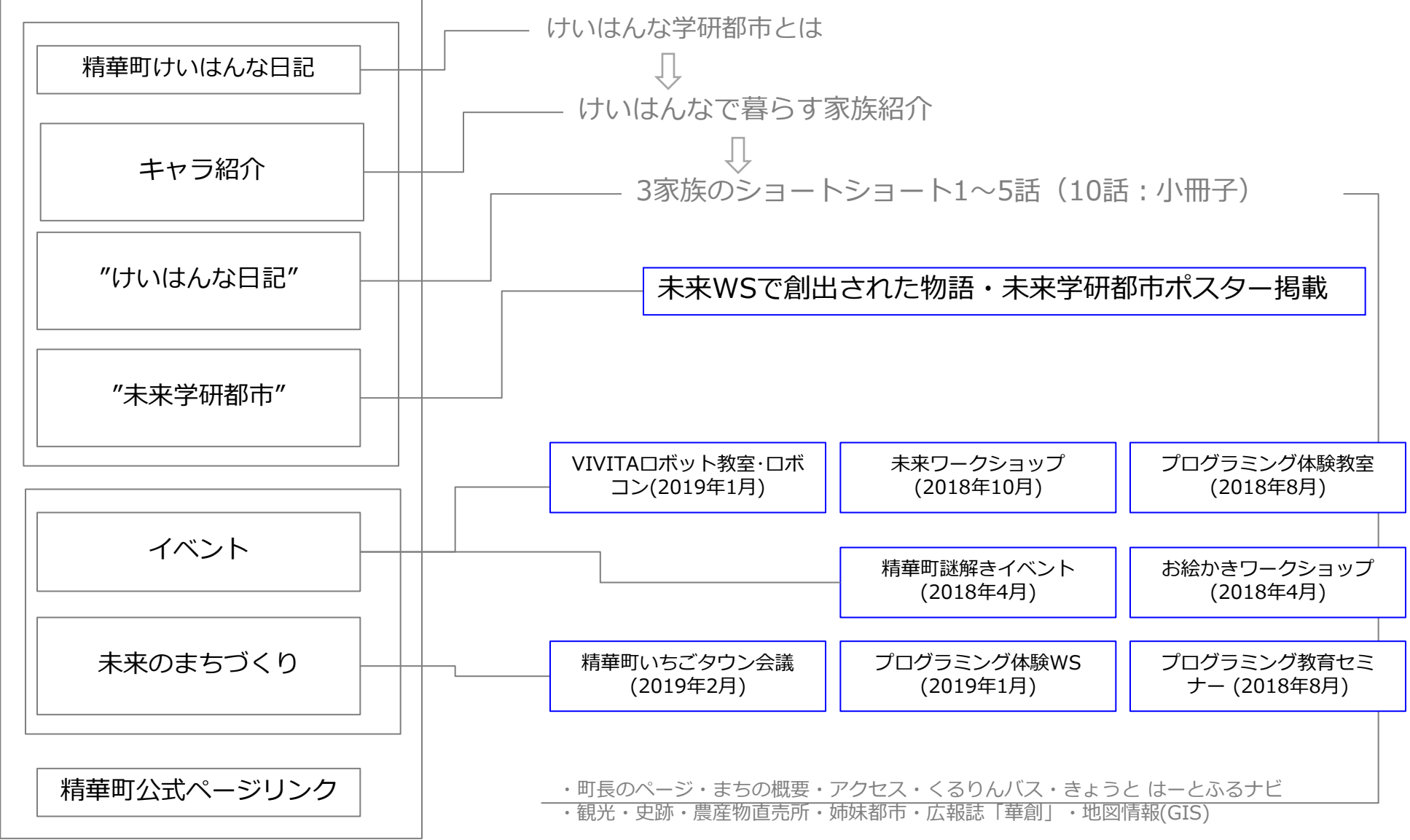
時 間	項 目	内 容	補 足
12:00 ～	昼食	・ 一度解散して、個人個人で昼食。	
13:00 ～ 14:00	会場設営 準備	・ 前日、もしくは午前中から会場説明準備可能であれば先に会場はセッティングしておく。	ロボコン動画 説明用スライド 大型モニター マイク・音響
14:00 ～ 14:30	会場入場 プログラミング 最終調整	・ 昼食を食べた子から、小会議室のロボット、タブレットを持って、会場に移動する。(VIVIPARTS等も全部セットで) ・ 午前中、製作したロボットに、VIVIPROGRAMMERを使ってプログラミングする。実際のコースを使って、動作確認などの準備を行う。できた子から出場準備で、スタッフに預けて待機する。	ロボコン動画 大型モニター マイク・音響
14:30 ～	オープニング	・ 時間になったらオープニング向けのロボコン動画を流してスタート。 ・ VIVITA ROBOCONの特徴と魅力を伝える。	オープニング動画 大型モニター マイク・音響 VIVIPROGRAMMER VIVIPARTS
14:40 ～	ロボコン体験	・ ロボコンのルール説明、コース説明を行う。 ・ エントリーした10名が順番に、ロボコンコースにチャレンジする。 ・ エントリーしたこどもが自分の製作したポイントをプレゼン。(30秒) ・ ロボコンコースにチャレンジ。(制限時間：5分) ・ 終わったら感想聞く。(30秒) 	コース説明 選手紹介 大型モニター マイク・音響 VIVIPROGRAMMER VIVIPARTS ロボット
15:40 ～ 16:00	クロージング	・ 得点集計、特別賞などの審査(5分) ・ 表彰式(優勝者 1名 特別賞 1名) ・ 集合写真で終了。	コース説明 選手紹介 大型モニター マイク・音響 優勝：ロボシャツ 特別：3Dオブジェ







www.seikacho.love ※「未来のまちづくり」「イベント」に関しては今年度実施分のみ掲載



精華町を、 もっとわくわくする町に

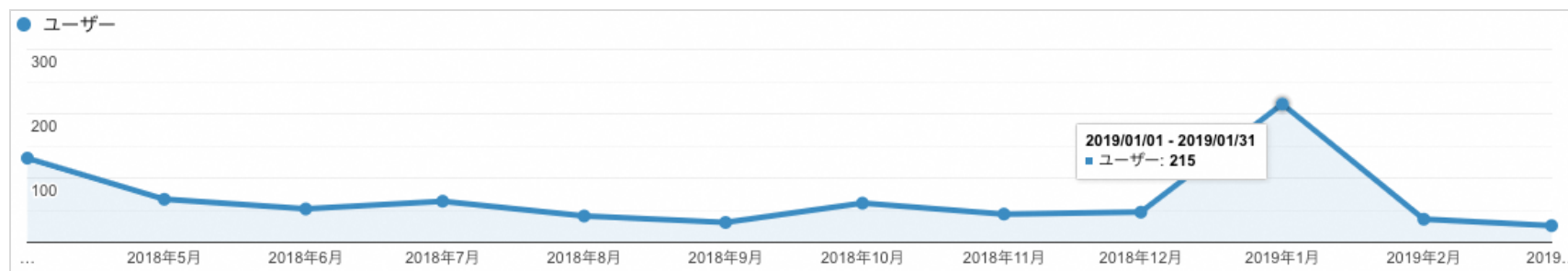
京都・大阪・奈良にまたがる「けいはんな学研都市」
その真ん中にある精華町は、最先端の研究と、豊かな
自然や文化施設が共存する【新しい町】です。

このサイトでは、精華町での暮らしを題材としたちょ
っとふしぎなショートショートや、けいはんな学研都
市がもっとわくわくする地域になるためにしているさ
まざまな取り組みを紹介しています。



	ユーザー数
2018年4月	131
2018年5月	67
2018年6月	52
2018年7月	64
2018年8月	41
2018年9月	31
2018年10月	61
2018年11月	44
2018年12月	47
2019年1月	215
2019年2月	36
2019年3月 (1~19日まで)	26
	752

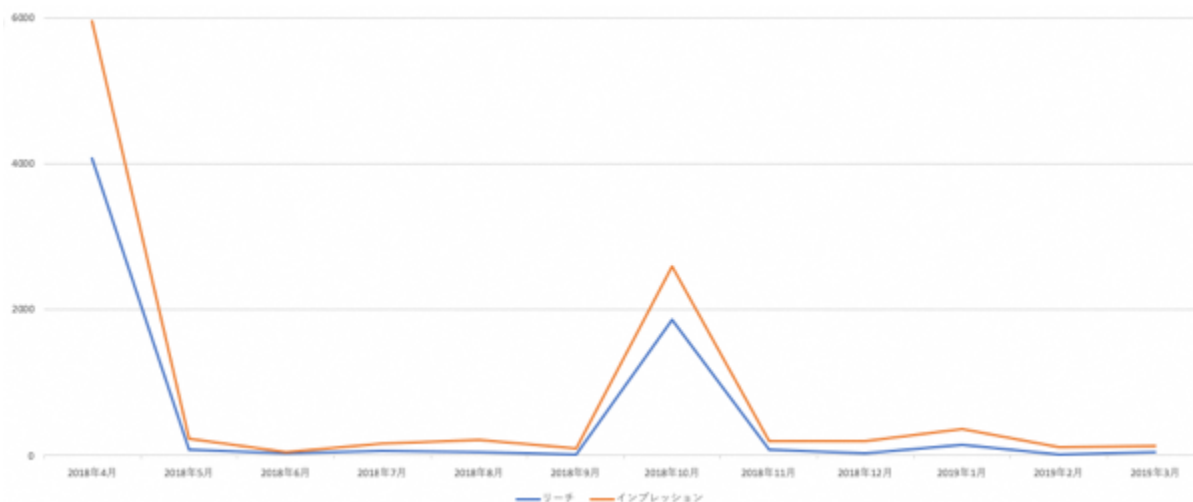
2018年年度ユーザー数の推移



【(3)②a】 チームラボと考える未来の学研都市Facebookページ



	リーチ	インプレッション
2018年4月	4072	5946
2018年5月	76	226
2018年6月	33	56
2018年7月	68	169
2018年8月	49	207
2018年9月	18	94
2018年10月	1856	2591
2018年11月	85	203
2018年12月	26	191
2019年1月	140	357
2019年2月	22	110
2019年3月 (19日まで)	51	139
	6496	10289



インプレッション：ページのコンテンツ、またはページに関するコンテンツが利用者の画面に表示された回数。(合計数)

リーチ：ページのコンテンツ、またはページに関するコンテンツが画面に表示された人の数。(ユニークユーザー数)

各種施策の広告・実施結果の掲載のために活用



2月
23日

自分だけのアイデアでオリジナルロボットを作ってみよう！【小学4-6年生限定】

公開・主催者：チームラボと考える未来の学研都市



4月
14日

チームラボ×京都精華町「親子お絵かきワークショップ」

チームラボと考える未来の学研都市さんが8月28日 18:00の写真 ...
8件を追加しました。
作成者：椎谷 ハレオ [?] · 8月28日 18:00 · ⑤ · ⑥

2018/8/25(土)micro: bitで学ぶ子供プログラミング体験教室@けいはんなオープンイノベーションセンター (KICK)
25個の赤色LED・2個のボタン・三軸加速度センサー・地磁気センサー(コンパス)・BLE(Bluetooth Low Energy)など、micro:bit(マイクロビット)に搭載された機能だけでも、子どもたちの想像力で、おもしろいガジェットを創造してもらいました。

<https://www.seikacho.love/programming-school-001>



32
リーチした人数

27
エンゲージメント数

投稿を宣伝

チームラボと考える未来の学研都市さんが8月28日 17:50の写真 ...
4件を追加しました。
作成者：椎谷 ハレオ [?] · 8月28日 17:50 · ⑤ · ⑥

2018/8/24(金)精華町の小学校教職員50名を対象に、2020年小学校からのプログラミング教育必修化に向けた「プログラミング教育セミナー」を開催しました。

東京大学大学院 情報学環・学際情報学府 越塚登教授とVIVITA株式会社のVIVISTOPサービスプランナー穴山信一氏をお招きし、両名に講義を行っていただいた勉強会を開催しました。

<https://www.seikacho.love/>



32
リーチした人数

14
エンゲージメント数

投稿を宣伝

各種施策の広告・実施結果の掲載のために活用



10月
28日 チームラボと考える学研都市未来ワーク
ショップ

詳細

京都精華町オリジナルキャラクター「けいちゃん、はんちゃん、なあちゃん」を題材とした、未来の学研都市の物語を親子で共創するワークショップを開催します。子どもの自由な発想と学研都市で働く研究者、親子が協力してけいはんな学研都市のユニークな未来を組み立ててもらいます。このワークショップで発想されたアイデアは、プロのライターが物語に書き起こし、プロのイラストレーターが挿絵を添えて未来絵本をつくり、精華町公式ホームページ「けいはんな日記」へ掲載させていただきます。
<https://www.seikacho.love/>

開催概要

- ・開催日時：10/28（日）14：00～17：00
 - ・開催場所：SEIKAクリエイターズインキュベーションセンター（けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）内）
 - ・京都府相楽郡精華町精華台7丁目5番地1（駐車場あり）
 - ・募集人数：学研都市に居住、または働く大人と小学4～6年生12組（子どもは兄弟での複数参加可）
- ※このイベントは、精華町の小学校へ通う親子限定となります。
- ▷申込みは下記URLから参加申し込みを行ってください。
<https://goo.gl/forms/xVil9Cmp2KDaWvtJ3>

▷持ち物

参加される方は、PC(又はスマホ)を持参してください。
ネットワーク環境は会場のWi-Fiを利用してください。

表示を減らす ▶

子供も参加可能



チームラボと考える未来の学研都市

作成者: 白鳥 啓 [?] · 1月31日 · 🌐

1月26日にけいはんな科学体験フェスティバルにて開催された「VIVITA ロボット製作教室」「VIVITAロボコン」の写真をアップしました！



46

リーチした人数

16

エンゲージメント数

投稿を宣伝

38

リーチした人数

32

エンゲージメント数

投稿を宣伝

Twitterに関する分析

- 「#精華町」というハッシュタグ投稿のリーチ数は2018年12月の61,373件から39,025件に減少。
- 一方「#けいはんな」の投稿リーチ数は前回計測時の830件から36件に減少。

#精華町



#精華町 のツイート計測結果

ツイートリーチ数：39,025 (2019年3月現在)

前回計測時(2018年12月)の61,373件から数値が下がっているが、前回計測時点と異なるのは、京町セイカのみではなく「能勢町公認キャラクター木勢るり」が#精華町の拡散に関わっている点である。

#けいはんな



#けいはんな のツイート計測結果

ツイートリーチ数：36 (2019年3月現在)

前回(2018年12月)からの数値変化830→36

現在けいはんな学研都市公式アカウントが活用を始めているが、リツイート等がされていないため、数値が伸び悩んでいる。



冒頭p.3「本年度の各業務報告にあたり」でも記載しましたが、当初は、【(3)②C】すでに先行している精華町コンテンツである京町セイカを活用し、立花理香さんをボーカルに起用＆人気ボカロP「ピノキオピー」による精華町PR楽曲を制作しYouTube上にアップロードして認知度を高めた後に、都市部でのPR活動やアンテナショップ等の手法検討および実施を予定していたが、【(3)②C】企画がペンディングとなったため、本件についての検討および実施も次年度以降に先送りとなりました。

なお、ネットコンテンツPR施策として想定した予算を、
【(3)③C】ショートコンテンツを印刷したパネル型ポスターの拡散目的に変更いたしました。

◆今年度の業務開始当初に想定していた施策案と、想定スケジュール

大分類	施策	内容	2018年				2019年	
			4月	5-7月	8-9月	10-12月	1-2月	3月
シティプロモーション	【(3) c】 Youtubeなどを活用したプロモーション 手法の検討	動画制作	企画・提案	キャスティング	・ナレーション録音 ・動画制作	・動画アップ	—	—
		【(3) b】 アンテナショップ検討 【(3) d】 グッズ・お土産	—	—	—	・ジュニアビレッジ案に【(2)】特産品デザイン 見直しWSを組み込み、 その際に、自由に使用できるコンテンツとして 製作した動画を中学生たちに提示する。	ラベル印刷 (中学生が活用すれば)	・マルシェ販売 ・【(3) b】アンテナショップ への陳列を検討

◆実際に実施した施策と、実施スケジュール

大分類	施策	内容	2018年				2019年	
			4月	5-7月	8-9月	10-12月	1-2月	3月
シティプロモーション	【(3) c】 Youtubeなどを活用したプロモーション 手法の検討	動画制作	企画・提案	キャスティング	町役場側でアプローチしていたナレー ターをキャスティングできずにペンディ ングに。	中止	中止	中止
		【(3) b】 アンテナショップ検討 【(3) d】 グッズ・お土産	—	—	—	活用できるコンテンツがなくなったので、当初の予 算を、【(3) c】京町セイカ・けいはんなショート コンテンツのパネル化予算に変更。	中止	中止



インバウンド対応（周遊観光）施策の事例調査

- (1) 産業観光とは
- (2) 茨城県つくば市における取組み
- (3) 四日市市における取組み
- (4) 桑名市における取組み

ここでは、地域ブランドを活かしたプロモーションによる産業振興・観光振興施策を行い、インバウンド対応（周遊観光）につなげている事例についてみていくこととします。



(1) 産業観光とは

「産業観光」とは、歴史的・文化的価値のある工場、伝統産業などのものづくりの現場、最先端の技術を備えた工場などを対象とした学びや体験を伴う観光のことで、訪日外国人向けの観光コンテンツとしても、欧米の旅行者を中心に体験者を増やしている。

また、伝統技術や工業生産の現場見学やものづくり体験などを通じて、日本のものづくりの心に触れることができるため、学生や児童の学習の場としても魅力がある。

【産業観光で旅行者を受け入れる企業や施設のメリット】

- (1) 消費者が直接意見を聞くことや反応を確かめることができ、企業活動や製品・サービスをPRする機会にもなる。
- (2) 国内外問わず、商用やコンベンション目的の訪問者の交流を促進することで、新たなビジネス創出などにもつなげられる。
- (3) 訪日外国人の企業や施設への訪問は、海外向けの情報発信としてビジネスチャンスにつなげられる。

【産業観光の規模】

産業観光の年間参加者数は7,000万人を超えており、国内観光客数（日帰り含む）約6億人の約1割超を占める市場となっている。京都文化交流コンベンションビューローによると、けいはんな学研都市内で開催された国際会議件数及び参加者数をみると、2017年は「京都スマートシティエキスポ 2017」をはじめ、9件開催されており、11,782人が訪れている。

また、公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構によると、国内及び海外から同都市内の公的機関及び大学15機関が受け入れた視察件数及び視察者数は、2016年度は国内642件・約14千人、海外83件・約1千人が訪れており、精華町においても産業観光のニーズはあると考えられる。

産業観光においては、(1) 外国人旅行客の誘致、(2) 産業訪問受入体制の強化、(3) 産業観光イベントの刷新の3つの要素が重要であるとされている。3つの要素を踏まえた産業観光の振興事例として、つくば市、四日市市、桑名市についてみていくこととする。



(2) 茨城県つくば市における取り組み

茨城県つくば市では、日本で唯一「モビリティロボット実験特区」の認定を受け、モビリティロボットを公道で走行させることができる。この特性を活かして、四季折々の風景や綺麗な街並み、最先端技術を肌で感じられるモニターツアーを造成。同ツアーは、旅行会社と連携して販売を進め、大きな需要を開拓。自主財源100%を達成しており、催行規模拡大に向けた体制構築を進めている。

図 事業全体のイメージ



【観光地ビジネスの進捗状況】

◆収益率の高い体験パッケージの開発

収益率が高く、高収益につながる体験商品を開発した(ランチ付プラン:75%/宿泊付プラン:41%)。今後は、需要が大きく収益率の高いランチ付プランをレギュラー化予定。ランチの種類を増やし、リピーターを飽きさせない工夫も計画している。

◆好調な売上で自主財源率100%を達成

目標入込客数 400名に対して、実績は514名。自主財源率目標65.3%に対して、実績は100%を達成。

◆催行規模拡大に向けた施策

催行人数が1回6名と少ない。英語ツアーのニーズも高いため、規模拡大のため、インストラクターの育成や英語マニュアルの活用など、受入体制の強化を進めている。

【概要】

ツアー名：セグウェイシティツアーin つくば

ツアーのポイント：

- (1) 公道でセグウェイに乗れる唯一の地域でセグウェイ体験
- (2) 初めてでも安心、乗車講習付
- (3) つくば市街をシティツアー 等

出所：観光庁「観光地ビジネス創出の総合支援事業」を基に作成。





(3) 三重県四日市市における取組み

四日市市では、同市観光協会、同市商工会議所、同市港管理組合等と連携し、工場夜景を生かした観光地域づくりに取組んでいる。

【取組概要】

四日市市には石油化学コンビナートがあり、夜間は幻想的な工場夜景が楽しめる。工場夜景を多くの人を楽しめるよう、四日市港ポートビルの展望室や夜景クルーズ船など、様々な観賞方法を整備。

「産業+観光」の両輪でまちづくりを進めるため、四日市観光協会内に設置された「産業観光PR部会」を中心に、夜景クルーズなどの取組みを実施。また、同市ならではの環境学習、産業観光を組み合わせたコンテンツを展開した観光地域づくりを推進している。

【成功要因】

- (1) 市内に加えて、県外の工場夜景都市とも密に連携し、「工場夜景」というカテゴリー強化に取り組んでいる。また、マスコミへのPRを行うなど、県外からの誘客にも取り組んでいる。
- (2) コンビナート企業から協力を得るとともに、官（市役所、港組合）と民（市内旅行事業者、コンビナート企業）の役割分担を明確化。さらに、同市環境部の協力もあり、公害と環境学習の要素も追加し、ガイドの擁立を重視している。

【宿泊客の誘客】

マスコミへのPRは放送圏が東海地方だけということもあり、日帰り客が多かった。宿泊の期待できる関西圏へのPRのため、近畿日本鉄道とコラボしたクルーズ商品を販売。関西方面への情報発信により、奈良や京都、大阪方面からの観光客が増加し、宿泊につながった。

【取組みの成果】

工場夜景観光の発展に向けて全国の自治体と連携し、2017年には連携都市は10都市まで拡大。また、四日市ぜんそくと環境改善の取組みについて学べる「四日市公害と環境未来館」は、伊勢志摩サミットに先立って行われた「2016年ジュニア・サミットin三重」の視察先になるなど、国内外の教育旅行の目的地にもなっている。その結果、四日市港ポートビル展望室「うみてらす14」の年度別入場者数は2013年度の35,733人から増加傾向にあり、2017年度（2月末時点）では、46,476人まで増加している。

出所：観光庁「観光地域づくり事例集」を基に作成。



(4) 三重県桑名市における取組み

桑名市では、同市内の自動車部品メーカーが海外からの工場見学事業を行っているほか「桑名市産業観光まちづくり協議会」が設立されるなど、観光の軸として「産業観光」が位置づけられている。

【産業観光の活用の経緯と現状】

桑名市の自動車部品メーカーA社は、60年以上培ってきた自社のノウハウもサービスになるのではと考え、「海外からの工場見学事業」をスタートさせた。

その結果、口コミとリピートのみで世界50か国以上から年間3,000名超（累計で約15,000名）の企業研修団を受け入れている。また、外部からの見学者受入により、従業員の意識が高まり、リーマンショック以降の増収効果につながっている。

こうしたなか、その取組みを地域創生の一つと位置づけて、桑名市と周辺企業や教育機関等との連携で活動を波及させていくこととなり、海外の研修団にむけて幅広い企業見学の機会を提供し続けている。

2016年には、桑名市の新たな観光の軸として「産業観光」が位置づけられ、「桑名市産業観光まちづくり協議会」が設立されている。また、同市は、地域市民や次世代の地域を支える人材に対して、地域の魅力ある企業を伝える活動の推進にも取組んでおり、「産業教育観光」として、幅広い人達に国際交流の場や企業を知る機会を提供し、地域活性化に向けて取組んでいる。

出所：桑名市産業観光まちづくり協議会、全国産業観光ガイドホームページを基に作成。



国内観光客およびインバウンド対応（周遊観光）施策の提案

- (1) 精華町の取組みの情報発信
- (2) 「京銀・東証イノベーションミーティング in けいはんな」
- (3) 「京銀・東証イノベーションミーティング in けいはんな」のアンケート結果

学研都市ブランドを活かしたシティプロモーションとして、2018年10月に、当行は株式会社 東京証券取引所と連携して「京銀・東証イノベーションミーティングin けいはんな」を開催しました。

当イベントでは、東証に上場する企業約50社を対象に、「けいはんな学研都市」での最先端技術の研究や各種取り組みを紹介したほか、同地区に入居する研究開発系・技術系ベンチャー企業やイスラエルベンチャー企業との「出会いの場」を提供しています。

また、参加者に対して「当イベントの満足度」、「今後、関心のある分野」、「精華町に対するイメージ（交通環境、飲食、宿泊等）」についてもアンケート調査を実施したのでみていくこととします。



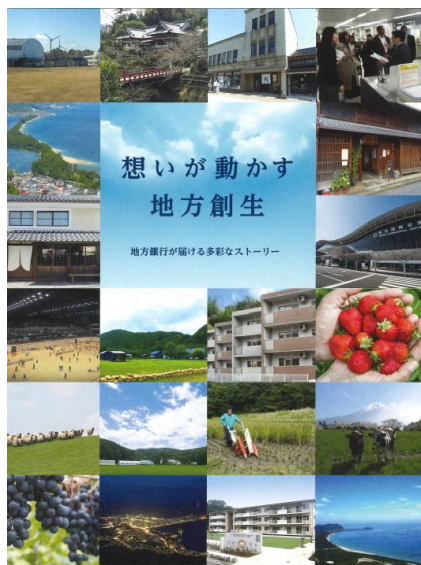
(1) -①精華町の取組みの情報発信

一般社団法人全国地方銀行協会は、平成30年春に会員行の地方創生の特徴的な好事例を取りまとめた事例集「想いが動かす地方創生」を発刊している。

事例集は、地方公共団体や民間企業との連携に役立てることを目的としており、全国の多くの取組みの中から精華町の取組みが選出されている。冊子は全国64の地方銀行を通じて広く配布されるとともに、京都銀行でも府内自治体ならびにDMOや関係機関に配布するなど、先進的な取組みを実施する精華町のプロモーションを行っている。

また、冊子発刊後には「内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部」からも問い合わせがあり、2017年度業務（RESASと関連する統計データによる地域分析、地域創生ビッグデータWEEK等）の概要について説明するなどの情報発信を行った。その後、RESAS活用の好事例として庁内報告している旨の連絡を受けている。

「想いが動かす地方創生」に掲載された精華町の取組み



一般社団法人全国地方銀行協会

Column

ハッカソンによる地域の魅力発信（京都府精華町）

皆さんは、ハッカソンをご存知ですか。ハッカソンとは、複数のチームが技術やアイデアを持ち寄り、数時間～数日の短期間にプログラム開発を競うイベントのこと。ソフトウェア解析・改造を意味する「ハック(hack)」と「マラソン(marathon)」を組み合わせた造語です。

京都府の学研都市・精華町と京都銀行が連携し、ハッカソンを通じて地域の魅力を発信する試みが2017年7月に実施されました。今回の「地方創生ハッカソン」には、技術者、デザイナー、学生など約40人が参加し、子供たちの疑問に学研都市の研究者が答えるスマホアプリなどが開発されました。

精華町 総務部企画調整課 課長補佐 西川和裕氏は、「開催には苦労もありましたが、京都銀行の協力もあって、行政だけでは構築できない人との繋がりができたり、斬新な発想でユニークなアプリ開発ができた。今後も、学研都市というブランドを活かし、体験型教育の推進やクリエイター支援等を通じた新産業創出を目指したい」と今回の成果に手応えを感じています。

ちなみに、地方創生に関する施策の一環としてサブカルチャーを含む創作活動を支援する精華町は、広報キャラクター「京町セイカ」をデジタルコンテンツで作成しています。

「学研都市のイメージや他団体との差別化を図るため、デジタルデータによる『萌えキャラ』を作成しました。安価なソフトウェアを用いることで、表情やポーズも変えられるため、維持コストの面でも重宝しています」（西川氏）

ハッカソンによる斬新なアプリ開発や、デジタルコンテンツの活用。独自のシティプロモーションを推進する精華町の地方創生は、さらに加速します。




ハッカソン開催時の様子

（左）精華町 本村町長 （右）京都銀行 土井頭取



精華町の広報キャラクター
「京町セイカ」

出所：一般社団法人全国地方銀行協会 「想いが動かす地方創生」より抜粋。



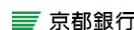
(1) -②精華町の取組みの情報発信

株式会社京都銀行と京都府立大学は、2016年7月に「地域創生に関する包括連携・協力に関する協定」を締結している。

協定に基づく取組として、京都府立大学・京都工芸繊維大学、京都府立医科大学の学生を対象に、「三大学教養教育共同化科目『京都の経済』」の講義を実施している（全13回）。

全13回のなかで、11月に「地方創生に向けた地域金融機関の取組」について講義しているが、そのなかで精華町と京都銀行との間に締結した「精華町の魅力発信パートナーシップ協定」について説明するとともに、RESASを活用した取組みとして、精華町、京都銀行等の主催で実施した「地域創生ビッグデータWEEK in京都」について紹介するなど、精華町の魅力発信を行った。

3.精華町におけるRESASを活用した取組み



<平成29年6月「精華町の魅力発信パートナーシップ協定」を締結>

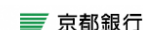
“精華町の魅力発信”に向けたシティプロモーションに関する取組みを連携・協力して推進。

<連携・協力内容>

- ・「学研都市精華町」のプロモーションに関すること
- ・サブカルチャー振興による交流人口拡大、クリエイター支援に関すること
- ・デジタルコンテンツ等による新産業の育成に関すること
- ・RESAS等を活用した、地域経済の分析や情報発信に関すること
- ・精華町特産の洛いも等の農産物を活用した六次産業化に関すること等



3.精華町におけるRESASを活用した取組み



「精華町の魅力発信パートナーシップ協定」に基づく連携事業の一環として、精華町、京都銀行、NTTドコモの主催により、「地域創生ビッグデータ WEEK in京都」を開催。

- ①地域創生ハッカソン-精華町シティプロモーション-（2017年7月22日・23日）
RESAS（地域経済分析システム）およびビッグデータを活用したアプリ開発コンテストを開催。
- ②データから考える 京都のミライセミナー（2017年8月4日）
ハッカソンの成果発表、RESASを用いた京都の現状解説やビッグデータの具体的な活用方法を紹介



出所：「三大学教養教育共同化科目『京都の経済』」 11月19日の講義資料「地方創生に向けた地域金融機関の取組」より抜粋。



(2) 「京銀・東証イノベーションミーティング in けいはんな」

株式会社京都銀行と株式会社東京証券取引所は、2017年10月に「資本市場に関する連携についての基本協定」を締結し、地域企業の成長支援において連携・協力している。

2018年10月に、協定に基づく取組みの一環として、「京銀・東証イノベーションミーティング in けいはんな」を開催した。

当イベントでは、新規ビジネスを模索する上場企業を対象に、「情報通信（ICT）」や「IoT」、「知能ロボティクス」等の分野における、「けいはんな学研都市」での最先端技術の研究や各種取組みを紹介するとともに、同地区に入居する研究開発系・技術系ベンチャー企業や日本企業との協業を目指すイスラエルベンチャー企業との「出会いの場」を提供した。

当日のプログラム

当日のプログラム	
1	「けいはんなオープンイノベーションセンター」(KICK)の見学
2	「国際電気通信基礎技術研究所」(ATR)のオープンハウス見学、情報通信フェアの視察
3	「イノベーションピッチ in けいはんな」の開催
4	交流会の開催

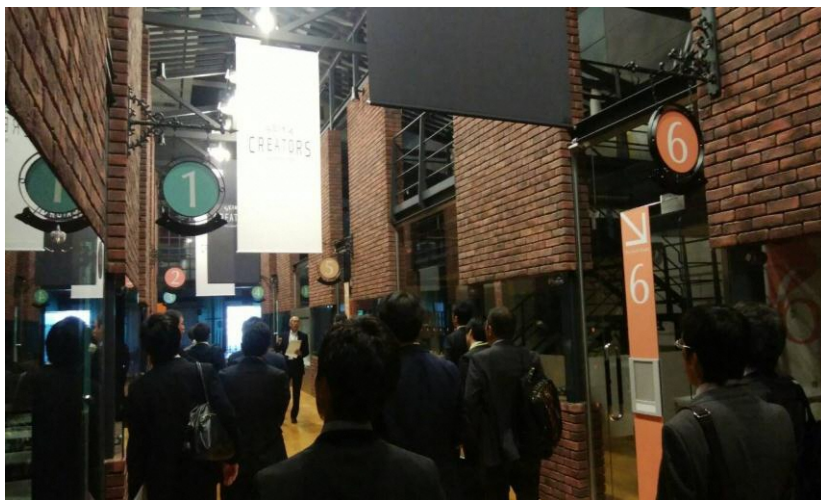
「イノベーションピッチ in けいはんな」のプレゼンテーション企業

企業名	所在地	事業内容
株式会社Keigan	精華町	自由制御可能なモーターモジュール「KeiganMotor」の開発及びソフトウェア開発
フロムデータ株式会社	精華町	農業・気象・公共インフラ・エネルギー分野などの設備・環境計測、データ収集、モニタリング、監視システムの設計・開発
ミツフジ株式会社	精華町	銀メッキ導電性繊維「AGposs」、ウェアラブルIoT製品「hamon」製品の開発・製造・販売
株式会社Stroly	京都市	様々な紙の地図を位置情報（GPS情報）と連携させて見ることができる地図のオンラインプラットフォームサービスを提供
ActiView	イスラエル	VRを用いて計測・分析した人のふるまいから個性を特定し、人材採用への活用ビジネスを行うBraintechスタートアップ
The Elegant Monkeys	イスラエル	様々なIoT製品に組み込み可能なアルゴリズムとセンサーにより、ストレスレベルを正確に計測できるプラットフォームを開発し、職場における個人のストレス計測サービスを提供



(2) 「京銀・東証イノベーションミーティング in けいはんな」

当日の様子

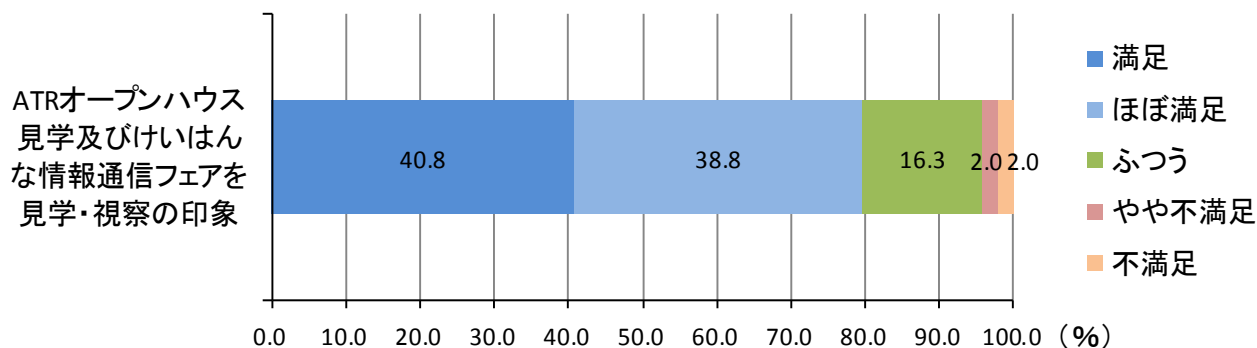
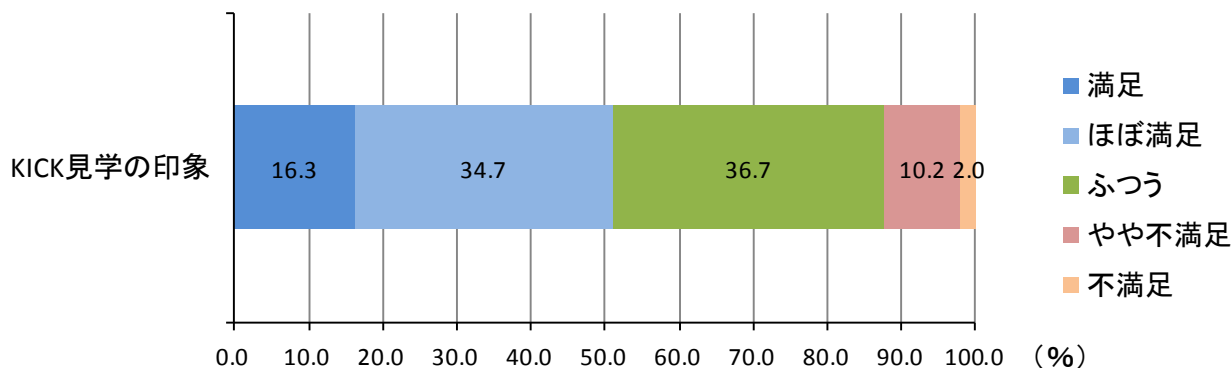




(3) -①「京銀・東証イノベーションミーティング in けいはんな」のアンケート結果

「京銀・東証イノベーションミーティング in けいはんな」では、参加者（49名）に対して「当イベントの満足度」、「今後、関心のある分野」、「精華町に対するイメージ（交通環境、飲食、宿泊等）」等についてのアンケートを実施。

アンケート結果のうち、満足した人の割合（「満足」の回答割合と「ほぼ満足」の回答割合の合計）をみると、「KICK見学の印象」については51%に留まっているが、「ATRオープンハウス見学及び情報通信フェアを見学・視察の印象」では79.6%と、高い満足度となっている。

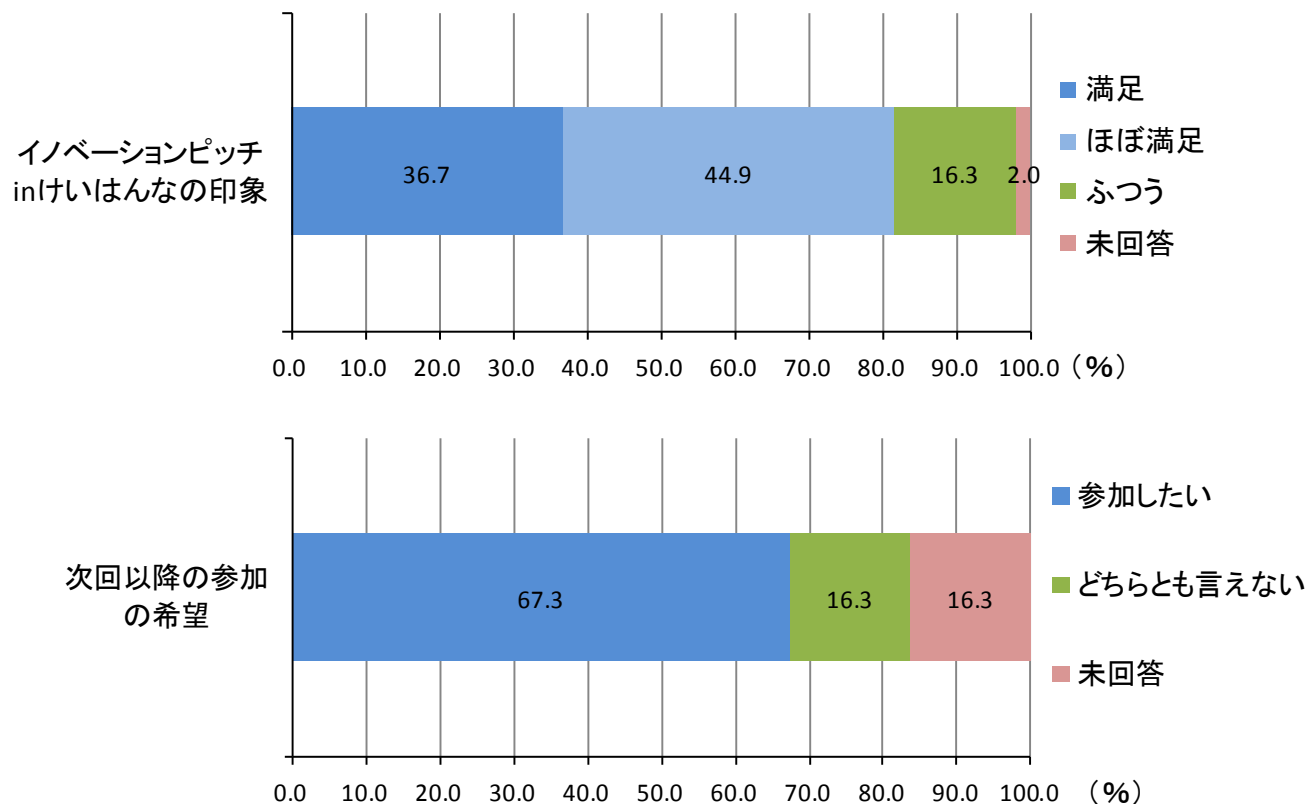




(3) -②「京銀・東証イノベーションミーティング in けいはんな」のアンケート結果

「京銀・東証イノベーションミーティング in けいはんな」の参加者に対して行ったアンケートのうち、満足した人の割合（「満足」の回答割合と「ほぼ満足」の回答割合の合計）をみると、「イノベーションピッチ in けいはんな」の印象については81.6%と、高い満足度となっている。

また、「次回以降の参加希望」についても、67.3%が「参加したい」と回答しており、「けいはんな学研都市」での最先端技術の研究や同地区に入居する企業への関心が高いことがうかがえる。



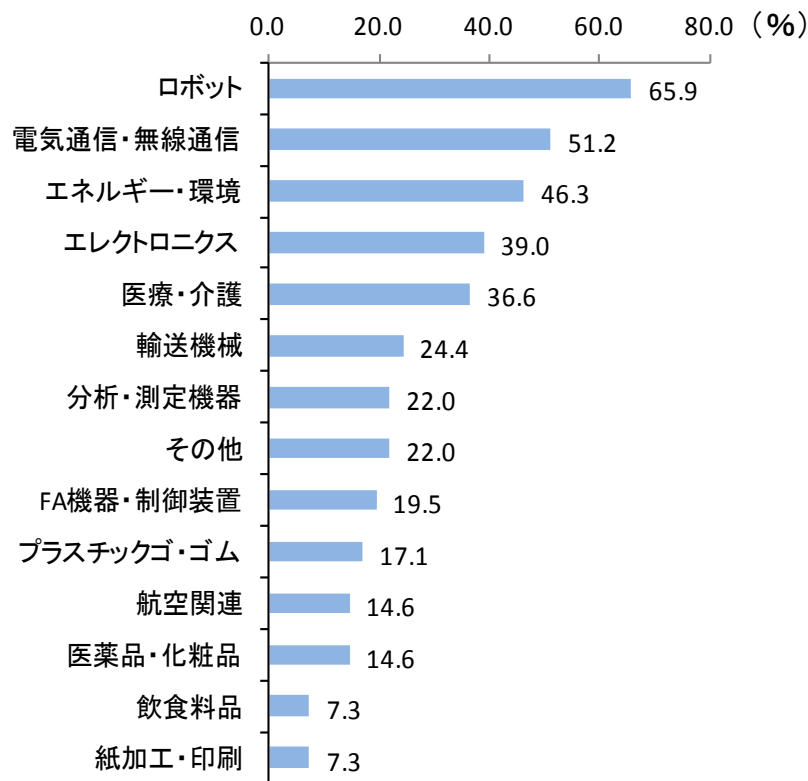


(3) -③「京銀・東証イノベーションミーティング in けいはんな」のアンケート結果

「京銀・東証イノベーションミーティング in けいはんな」の参加者に対して行ったアンケートのうち、「次回以降の視察で関心のある分野」についてみると、「ロボット」が65.9%と最も高く、次いで「電気通信・無線通信」（51.2%）、「エネルギー環境」（46.3%）、「エレクトロニクス」（39%）、「医療・介護」（36.6%）などが続いている。

次回以降の視察で関心のある分野について

関心のある分野	回答数	%
電気通信・無線通信	21	51.2
ロボット	27	65.9
エネルギー・環境	19	46.3
飲食料品	3	7.3
エレクトロニクス	16	39.0
FA機器・制御装置	8	19.5
輸送機械	10	24.4
分析・測定機器	9	22.0
航空関連	6	14.6
プラスチック・ゴム	7	17.1
紙加工・印刷	3	7.3
医療・介護	15	36.6
医薬品・化粧品	6	14.6
その他	9	22.0



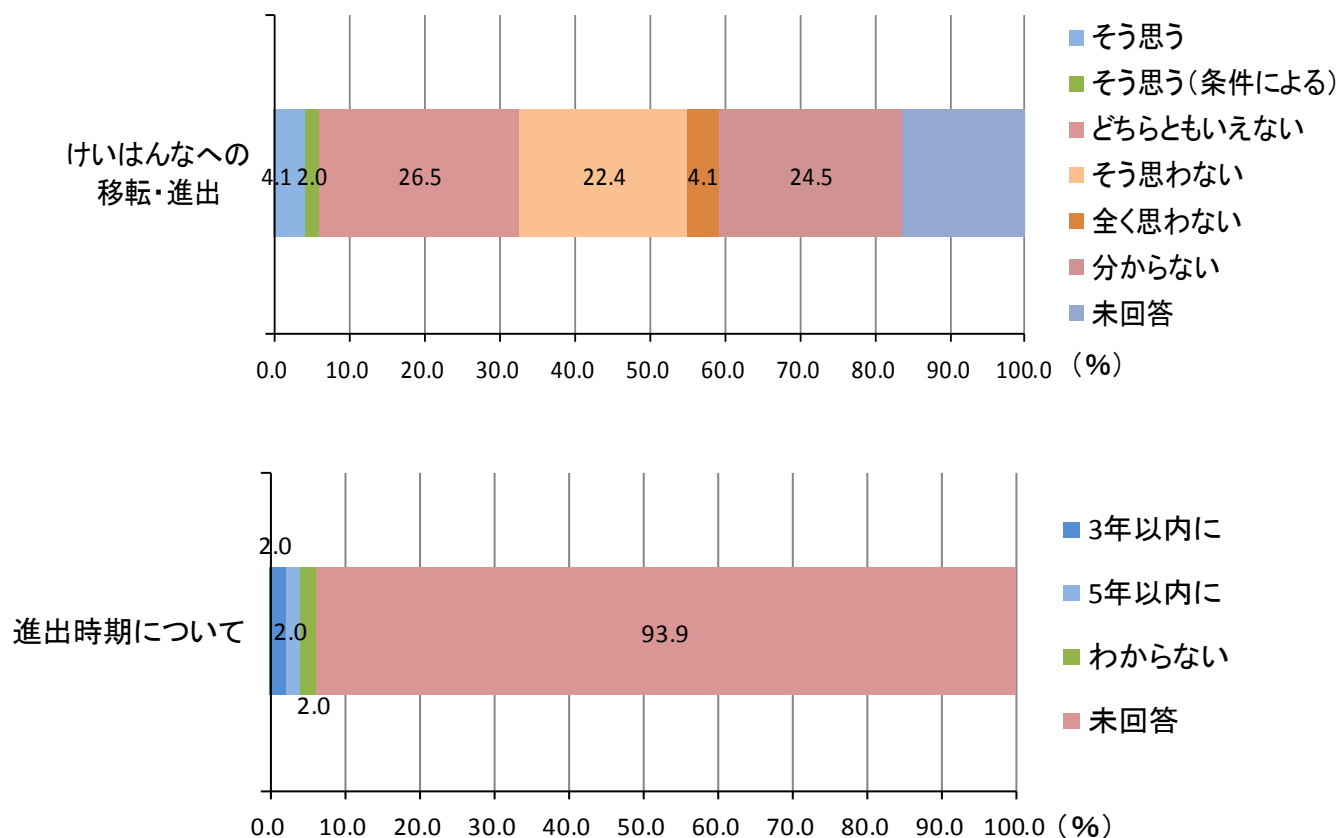
注：複数回答のため、%の合計値は100にはならない。



(3) -④「京銀・東証イノベーションミーティング in けいはんな」のアンケート結果

「京銀・東証イノベーションミーティング in けいはんな」の参加者に対して行ったアンケートのうち、「将来、精華町（けいはんなエリア）に本社や事業所を移転・進出したいか」については、「そう思う（条件による含む）」と回答した企業は3社あった。

また、「進出時期」については、9割以上の企業は未回答となっているが、「3年以内に」と回答した企業は1社（構成比2%）、「5年以内に」も1社（同2%）となっている。





(3) -⑤「京銀・東証イノベーションミーティング in けいはんな」のアンケート結果

「京銀・東証イノベーションミーティング in けいはんな」の参加者に対して行ったアンケートのうち、「精華町（けいはんなエリア）のイメージ」おける自由回答は下記のとおり。

本社所在地が東京都の企業では、綺麗に区画された街で、研究・イノベーションの拠点として好立地であるとの意見がみられた。一方、交通環境については、公的交通機関へのアクセスが不便であるなどの意見がみられた。

本社所在地	市場	精華町（けいはんなエリア）のイメージ
東京都	東証一部	インフラの何かが足りない。交通の便か？
		遠い。
		環境的には静かで良いところだと思いましたが、交通の便が気になる。
		街らしくなった。今後の更なる発展に期待。
		やや遠い。エリア全体で実証実験できるのは大きな強み。
		企業交流が盛ん。交通は不便。住環境は良いが、けいはんな学研推進機構が頑張っている。
		土地勘はないため何とも言えないが、面白い都市づくりだと思う。
		交通環境については、やや発展途上である感が否めない。
		思ったより京都から近い。
		大阪からだとし遠いイメージ。
		高速を使えば京都駅からも近くイメージが良くなった。
		ワーキング環境は良いと感じる。
		実験等を行う場としては素晴らしい一面、生活感なく無機質。モチベーションを高め、人的ネットワークを拡げる仕掛けが必要と感じた。駅までのアクセスが良くない。
	東証二部	公的交通機関からのアクセスが悪い。
		今回まで「けいはんな学研都市」のことを知らなかったが、またぜひ、訪れてみたい。
	JASDAQ	東京からのアクセスは不便。地理は良い。
		見学した範囲では若い人が少ないイメージ
		非常に綺麗であり、研究・イノベーションの拠点として好立地だと感じた。
		広大なエリアに綺麗に区画された街で気持ちが良い。
		少々遠い。



(3) -⑥「京銀・東証イノベーションミーティング in けいはんな」のアンケート結果

「京銀・東証イノベーションミーティング in けいはんな」の参加者に対して行ったアンケートのうち、「精華町（けいはんなエリア）のイメージ」おける自由回答は下記のとおり。

本社所在地が東京都以外の企業についてみると、自然を生かした街づくりや開発エリアについては評価されている。交通アクセスについてみると、京都市内からの移動が楽になったものの、移動手段は自動車が必要であるとの意見がみられた。

本社所在地	市場	精華町（けいはんなエリア）のイメージ
神奈川県	東証一部	関西地区の研究開発や地域のイメージ、非常に整備されていました。
		今回、初めて訪問したがとても落ち着いたところだった。首都圏からくると移動手段が車しかないイメージがした。
		今回だけでは判断できませんが、イメージは良い状況で終わることが出来ました。天気もあると思います。
		携帯の電波が悪い。自動販売機でSUICAが使えない。本当にハイテクの街なのか。
愛知県	東証一部	自然を多く取り入れ、街づくりをうまく取組まれている。大変素晴らしいと感じました。
	東証二部	自然を生かした開発エリアのイメージは大変良かった。
福井県	東証一部	活動しやすいエリアだと思う。
京都府	東証一部	第2京阪とつながったことにより京都市内からの移動が楽になり利便性が上がったと感じます。
		車が必須
	JASDAQ	何かと「不便」のイメージしかない。
大阪府	東証一部	意見交換は十分に行えた。先端技術を多少、学べたと思います。次回は他の分野の研究会をお願いします。
		久々に来たが、以前よりずいぶん発達したと思う。
		交通の便は良くない。研究団体はもっと補助を出さないと誘致できないのではないかと。
		車でのアクセスは良さそう。
	JASDAQ	研究施設が多い。
福岡県	マザーズ	車では便利だが、自社はあまり普通車を使わないのでイメージしにくい。
	東証二部	遠いイメージがあったが、今回そうではないことが分かった。

c.京町セイカやけいはんな日記等を活用したショートショートコンテンツ作成



チームラボと考える学研都市未来ワークショップ

2018年10月28日 実現性のある未来の町を形にするワークショップをけいはんなKICKで開催
参加者は精華町の小学校に通う子どもと親、けいはんな学研都市で働く若手研究者

3時間のワークショップで、思い描いたアイデアを子どもたちが3回に分けて発表。
それぞれの発表には、研究者から実現性の裏付けとなるテクノロジーのレビューをもらう。
それぞれの子も達がもつ情報をみんなで共有することで、みんなが思う「多様性」を知り、
思い描いた未来を絵にするクリエイティブな体験をすることで、社会との接し方を学ぶ。

1回目 親子での会話から浮かんだものを絵に描く。
「こんなものが空を飛んでいたら」「こんな車やロボットがあったら」「こんな農園があったら」...

2回目 ほかの子供のアイデアの感想を、親子でディスカッション。
具体的なターゲットと状況(朝・夜・夏・冬)を話し合ってもらい子供はそれを絵に描く。

3回目 写真で撮って見せびらかしたくなるような絵を、こどものアイデアで描いてもらう。
絵はそれを文章で補足し、アイデアの具体的な機能について研究者からサポートを受ける。



今回出たアイデアもとにして、京都在住のイラストレーター・おおえさきさんが子どもたちの絵の原型を壊さないようにイラストとストーリーに起こしました。実際に精華町の小学校に通う子どもと住民と研究者が考えた、未来の学研都市の物語が6枚のポスターになりました。どうぞご覧ください。

ポスターに登場するのは、精華町の広報担当・京町セイカさん。精華町の小学校に通う、いつも元気な女の子、けいちゃん。大阪から転動してきた男の子、はんちゃん。本が大好きな女の子、なみちゃんとその3家族です。京都、大阪、奈良の真ん中にある町は、新しい技術の研究や、新しいみどりと生活と文化を作るため、沢山の人が働いて暮らしています。この周辺地域、京都・大阪・奈良の顔文字をとって「けいはんな学研研究都市」と呼ばれています。多くの研究所や会社があって、大きな図書館があって、素敵な公園があって、スイーツのお店が沢山あります。

京町セイカや、けいはんな日記の登場人物を活用したショートショートコンテンツは、【(3)① a-2】で報告した「10/28

(日) 研究者と親子で考える未来の学研都市」お絵かきワークショップで出てきたアイデア6案をもとに、WEBなどで掲載できるようにコンテンツ化を進めておりました。

そのようななか、(3)②Cにて記載した、ネットコンテンツPR施策を同時進行しておりましたが、チームラボ側はピノキオPに依頼して了承を得ていたが、精華町役場側でアプローチしていた声優への連絡取れなくて、今年度の実施はペンディングに。

その結果、ネットコンテンツPR施策として想定した予算を、ショートコンテンツ印刷したパネル型ポスターの拡散目的に変更いたしました。

12月ショートコンテンツポスター完成

役場・駅サイネージ・科学のまちの子イベント

→B2×7枚パネル(左記の説明パネル1枚+ポスター6枚をパネル化)×5部 納品し、各所に掲載いただきました。

★【(3)③c】 親子で考える未来の学研都市ショートコンテンツ



親子と研究者で考える未来の学研都市

科学の
まちの
子どもたち



今日は、けいはんな記念公園の花火大会の日。花火大会といっても、この街の花火はただの花火ではないようです。
夕方、けいちゃん、はんちゃん、なあちゃん3人のお父さんは公園にやってきました。
「なんや、不思議な装置がたくさん並んでるなあ。」と言ってキョロキョロするはんちゃんに、「この装置は、雲をつくる装置や。放射した熱い水蒸気が空気中の温度差によって、下から見ると雲に見えるねん。」と、なあちゃんのお父さんが説明してくれました。
なあちゃんのお父さんは、公園の隣にある国会図書館で働いているので、この花火大会にも詳しいのです。
「どんどん空に雲ができていく！」「まるで、でっかいじらさんみたいやわあ」みんなは口をあんぐりあけて、空を眺めていました。
「そして！このゴーグルをつけると、ゴーグルの中では雲の上にある公園に行けるんやで〜」

なあちゃんのお父さんが借りてきたVRのゴーグルをつけると、3人の目の前にはふわふわな雲の上に広がる公園が現れました。
けいちゃんのお父さんは、空を見上げて「おっ！雲の上には3人の姿が見えますね」と声をあげました。
「地上にいる子供の動きと同じ映像が、レーザーで映し出されているんですよ」と、なあちゃんのお父さんは説明します。

そのとき、雲でできたクジラから潮がびゅーと吹き出るように、花火が打ち上がりました。大きな音も響いています。
「なるほど！花火大会の会場は、ここではなくてクジラ公園やったんやな！」はんちゃんのお父さんは納得して笑いました。
クジラ公園から打ち上がるちょっと特別な花火を、子どもも大人も楽しそうに眺めていました。

イラスト・文 おおえき

このお話のアイデアは、精華町の子どもたちが考えたものです。



親子と研究者で考える未来の学研都市

科学の
まちの
子どもたち



ポカポカ陽気が気持ちいい春の日。
けいちゃん、はんちゃん、なあちゃんは家族みんなでけいはんな記念公園へ、お花見にやってきました。

けいちゃんは、はんちゃんのお弁当を見て、びっくり！「はんちゃんのお弁当、たこ焼きが入ってるやん！」
「せやで！うちでは、たこ焼きもご飯のおかずやねん。」と、はんちゃん。「粉もんとお白飯、ナイスコンビや！」
得意気に話すはんちゃんに、3人のお母さんたちは大笑い。

なあちゃんは、けいちゃんの鼻がたっぷり入った太巻き寿司を見て、
「おいしそうやねえ。たこ焼きもサンドイッチも好きやけど、お寿司も好きやわあ」と、うっとり。
「わたしも！たまごとサーモンのお寿司が好き！」と、けいちゃん。
「ぼくはマグロ！あと、いくら！」と、はんちゃん。
「わたしは、柿の葉寿司！いくらでも食べてしまわあ」と、なあちゃん。

お寿司の話が盛り上がると、けいちゃんはみんなで回転寿司に行きたくくなりました。
「ここでお花見をしながらお寿司が運ばれてきたら、きっと便利やろうなあ。」
お皿にドローンのプロペラがついた空飛ぶお寿司がやってくるのを想像して、ニヤニヤ顔のけいちゃんのでした。

イラスト・文 おおえき

このお話のアイデアは、精華町の子どもたちが考えたものです。



【(3)③c】 親子で考える未来の学研都市ショートコンテンツ



親子と研究者で考える未来の学研都市

科学の
まちの
子どもたち



冬の空を見上げ、「はぁ…」とため息をつくなあちゃん。このところ、なんだか気分が落ち込んでいるようです。心配したお母さんは、「新しくできた動物園が凄いらしいよ、行ってみようか！」そう言っただけでなあちゃんを誘いました。

けいはんな記念公園の隣には「ハッピー動物園」の看板があり、なあちゃんたちは2つの入り口の前までやってきました。係のお姉さんは、「ひとつは動物園、もうひとつは植物園、つながっています。ここでは、お客さまの表情をカメラで読みとって、そのときの気持ちに合わせてお花や動物とふれあうことができます。」と説明しました。

たくさんのお花の中をきょろきょろしながら歩いていると、お花の中からきれいな音色が聞こえてきました。バラからはフルートの音が、ひまわりからはピアノの音が。他の花からも色々な音色が聞こえてきて、植物園の中はまるでオーケストラが演奏しているかのようです。

「すーい！お母さん、次は動物園にしよう！」花たちの演奏会でちょっと元気になったなあちゃんは、動物園の方へ進みました。そこでは可愛いリスやうさぎ、鳥たちが自由に動き回っていました。「みんなかわいいなあ。一緒に遊んでくれたら嬉しいな。」なあちゃんがつぶやくと、動物たちはなあちゃんの足元へやってきました。「あら、なあちゃんの言葉が分かったみたいやね」お母さんの言葉に、「そうだよ」と答えるように動物たちは耳やしっぽをバタバタ動かししました。

次の日、なあちゃんは動物園のことを学校で話しました。「えー、動物と話せるって、めっちゃ楽しそうやん！」と、けいちゃん。はんちゃんは、「ぼくもやったら、ツッコミ漢字してみたい！動物はボケてくれるかな〜」みんなの笑いをさそいました。「じゃあ今度はみんなで行こう！」すっかり元気になったなあちゃんは、そうみんなと約束をしました。

イラスト・文 おおえき

このお話のアイデアは、精華町の子どもたちが考えたものです。



親子と研究者で考える未来の学研都市

科学の
まちの
子どもたち



「将来は、友達と遊ぶために学校に行くようになるかも知れへんなあ」

ある日、けいちゃんのお父さんはニヤニヤしながら言いました。けいちゃんのお父さんは、人工知能の研究者です。「ほな、勉強はどこですの？」と、けいちゃんは質問しました。

お父さんはちょっとだけ考えて、「それはな、けいちゃんの部屋にあるパソコンからネットに繋いで、そこにいる先生と会話をしながら勉強するんやで。」と答えました。

「え！うちにながら、先生とわたしだけで勉強するのん？」けいちゃんは、さっぱりイメージができません。

「いまの学校は、ひとりひとりの能力や性格を理解しないまま、みんな同じ勉強をしているやんや」と、お父さん。「せやねん！分からへん問題があるのに、話がどんどん進んでしまうときは困るねん。それに、すでに知っていることを説明されているときは、つまらんねんなあ。」けいちゃんは口をとがらせて言いました。「せやろ？だから未来は、けいちゃんのことをよく知っているAI先生が、けいちゃんのことから分からないことはゆっくり、知っていることはどんどん話を進めながら勉強を教えてくれるようになるんやで。」

お父さんの話を聞いて、けいちゃんは「それめっちゃいい！」と喜びました。「きっと勉強がもっと分かりやすくなるし、学校には遊ぶためにだけに行けるんで最高や！」けいちゃんは、自分のところにAI先生が来る日のことを考えて、わくわくしました。

イラスト・文 おおえき

このお話のアイデアは、精華町の子どもたちが考えたものです。



【(3)③c】 親子で考える未来の学研都市ショートコンテンツ

およ 泳げろ AI水族館

親子と研究者で考える未来の学研都市

科学の
まちの
子どもたち



「けいはんなプラザの隣に、めっちゃ面白いプールができたんですよ！行ってみよう！」
はんちゃんに言われて、けいちゃんとなあちゃんがやってきたのは、水槽の中に魚がたくさん泳ぐ水族館。
よく見てみると、マスクのようなシュノーケルをつけた子どもたちが、水の中を魚と一緒に泳いでいました！

「なにこれ！水族館なのに、泳げるの？」けいちゃんとなあちゃんは、目をぱちくりさせています。
「ほな、ぼくはさっそく着替えて泳いでくるわ！」はんちゃんはそう行って、さっさと行ってしまいました。
なあちゃんは水槽をのぞいて「あの中かでみんながつけてるマスク、なんやろね？」と言いました。

「あれは水中マスク。水の中でも自由に呼吸ができる、最新のマスクなんです。」
そう答えたのは、水族館のガイドを務めている、精華町のマスコットキャラクター・京町セイカちゃんでした。
「今、はんちゃんと一緒に泳いでいるイルカは、実はAIロボットで、人間の考えていることをキャッチしてくれます。」
セイカちゃんは2人に説明してくれます。「小さな魚には通信機能がついて、群れを作って泳ぐこともできるんです。」
小魚ロボットたちはダンスを踊るように、はんちゃんの周りを泳いでいます。

一緒に来た3人のお母さんは、水の中を自由に泳ぐ子どもを見守りながら、話をしています。
「私が子どものころ、泳いでいいのはプールだけで、水族館は魚を見るためのものやったのになあ」
「息継ぎが苦手だったけど、あのマスクがあれば泳げるかもしれへんなあ」「今度、大人だけで泳ぎにきましようか！」
そんな相談をしながら、子どものように目をキラキラさせるお母さんたちなでした。

イラスト・文 おおえき

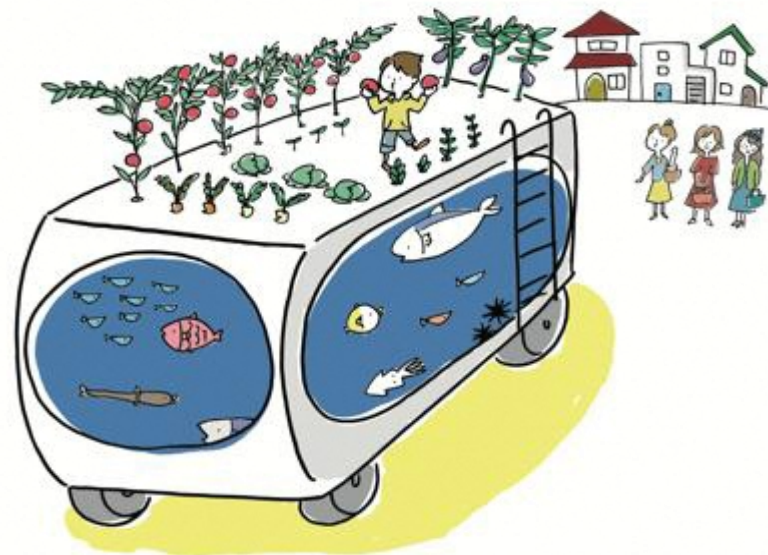
このお話のアイデアは、精華町の子どもたちが考えたものです。



自給自足 いきなりじごくカー CAR

親子と研究者で考える未来の学研都市

科学の
まちの
子どもたち



はんちゃんが学校から帰ってくると、家の前には奇妙な車が停まっていた。
車体は大きな水槽で、中には魚が泳いでいます。「おかあさん！これ、なに？」

はんちゃんのお母さんは、「これは魚屋さん。町内のみんなでリクエストしたら、来てくれたんですよ」と言いました。
「魚屋さん？いつもこの泳いでる魚を買ってたんですよ！」
「せやねん。最近開発されたばかりの車らしくて、今度呼んでみようって近所のママ友みんなで話してん。」
お母さんたちは、どの魚を買おうか水槽の中をのぞきながら話しています。

「はんちゃん、車の上には畑があるから、好きな野菜とってきてええよ。」
「車の上に野菜？」はんちゃんは、さっそくハシゴで車の上へのぼってみました。
するとそこには、トマトやナス、キャベツがたくさん育てられている畑が広がっていました。

大好きなトマトを抱えて戻ってきたはんちゃんは「土もないのに、どうやって育ててるんやろう？」と言って、トマトを眺めました。
不思議そうしているはんちゃんに、車を運転してきた係のおじさんは「水槽の水と、中で泳ぐ魚のフンで野菜を育ててるんですよ。
この方法を使うと、台風や気候に関係なく自給自足をすることができると言います。」と教えてくれました。

「この車あればお買い物に行かなくても、自分たちで野菜を育てたり、新鮮な魚を仕入れることができるんですよ」
はんちゃんは、学研都市で開発された自給自足の車を見上げて、そうつぶやきました。

イラスト・文 おおえき

このお話のアイデアは、精華町の子どもたちが考えたものです。





冒頭p.3「本年度の各業務報告にあたり」でも記載しましたが、当初は、【(3)②C】精華町コンテンツのYouTube活用案などとともに、ジュニアビレッジ案に組み込んだ【(2)④】特産品デザイン見直しワークショップにて、中学生たちからのアイディアを募ってから、都市部でのPR活動やアンテナショップ等の手法検討および実施を予定していたが、ジュニアビレッジ企画がペンディングとなったため、本件についての検討および実施も次年度以降に先送りとなりました。

なお、グッズ制作関連として想定した予算を、
【(3)①b】科学のまちの子供たちイベントにおける「VIVTAロボット教室&ロボコン」の規模拡大予算に変更いたしました。

◆今年度の業務開始当初に想定していた施策案と、想定スケジュール

大分類	施策	内容	2018年				2019年	
			4月	5-7月	8-9月	10-12月	1-2月	3月
シティプロモーション	京町セイカ・けいはんな関連	【(3) c】 ショートコンテンツ	【(3) a-1】 第1回お絵かきWS開催	—	—	・【(3) a-2】第2回お絵かきWS開催 ・子供たちのアイディアをもとに大江咲さんと【(3) c】ショートコンテンツ作成	WEBサイト掲載	—
		【(3) b】 アンテナショップ検討 【(3) d】 グッズ・お土産	—	—	—	・ジュニアビレッジ案に【(2)】特産品デザイン見直しWSを組み込み、自由に使用できるコンテンツとして、京町セイカやけいはんな日記関連のコンテンツを中学生たちに提示する。	ラベル印刷 (中学生が活用すれば)	・マルシェ販売 ・【(3) b】アンテナショップへの陳列を検討

◆実際に実施した施策と、実施スケジュール

大分類	施策	内容	2018年				2019年	
			4月	5-7月	8-9月	10-12月	1-2月	3月
シティプロモーション	京町セイカ・けいはんな関連	【(3) c】 ショートコンテンツ	【(3) a-1】 第1回お絵かきWS開催	—	—	・【(3) a-2】第2回お絵かきWS開催 ・子供たちのアイディアをもとに大江咲さんと【(3) c】ショートコンテンツ作成	・WEBサイト掲載 ・【(3) c】B2(パネル化して、役所やATRなどに掲示	—
		【(3) b】 アンテナショップ検討 【(3) d】 グッズ・お土産	—	—	—	ジュニアビレッジ案がペンディングとなり、グッズ・お土産などに活用する意味合いが薄れたので、当初の予算を、【(3) b】VIVTAロボット教室&ロボコンの規模拡大予算に変更。	中止	中止



冒頭p.3「本年度の各業務報告にあたり」、ならびに、【(2)④】「華工房で開発された特産品デザインの見直しおよび町内農産物を活用した加工品・新商品開発に向けた地域住民、学生とのワークショップ」の冒頭でも記載しましたが、本件については、町内農産物を活用した加工品・新商品開発に向けた「精華町いちごタウン構想未来会議」実施にあたり、精華町内の従業者（地元生産者・地元スイーツ店）と近隣大学生（京都精華大学）に参加いただき本件の要件を兼ねました。

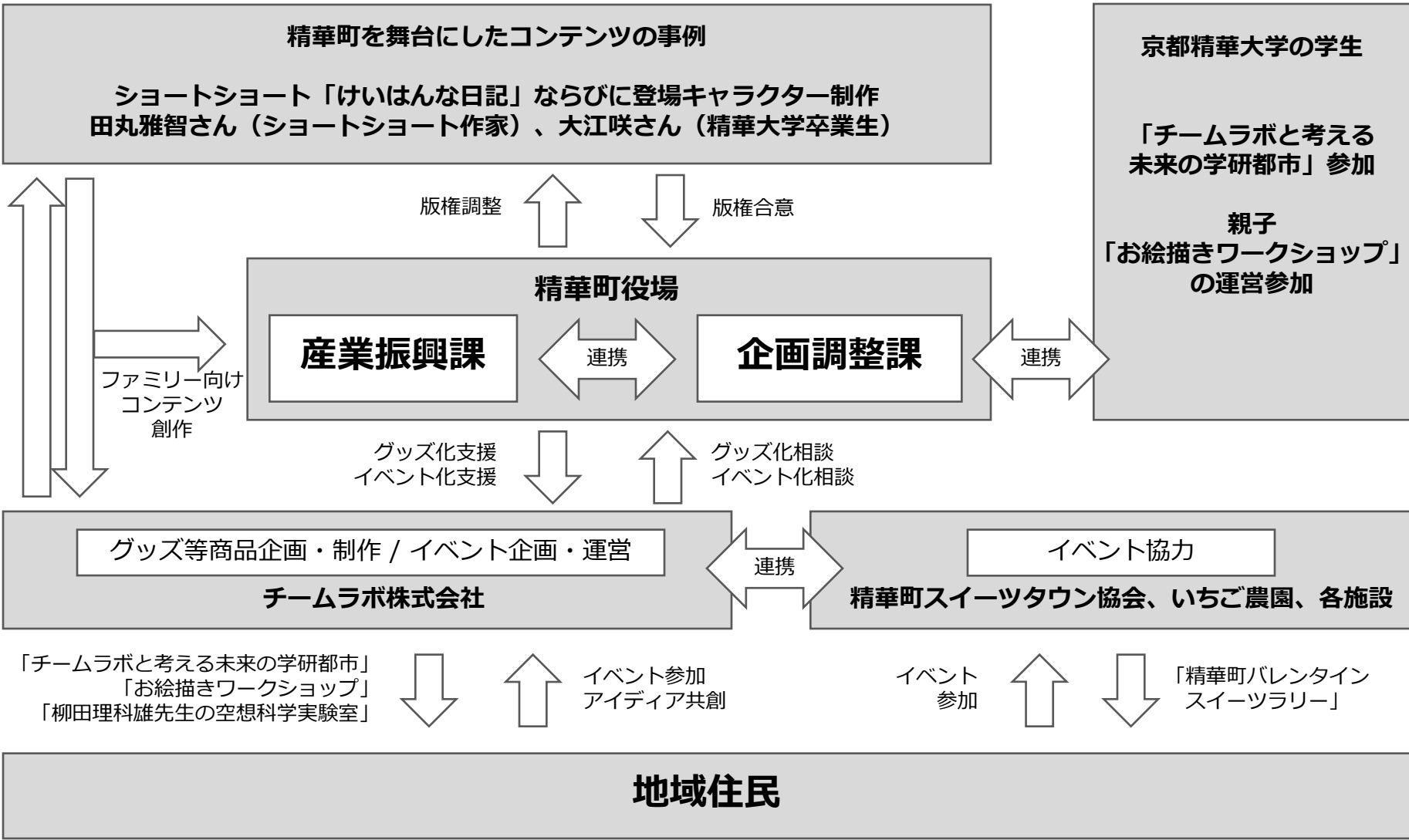
また、【(3)① a-2】「研究者と親子で考える未来の学研都市」においても、精華町内の従業者であるATRにお勤めの研究者数名にも参加いただき、子供たちのアイデアを実現する方法について研究者の視点からアドバイスいただきました。
今後、定期的に開催することができれば、精華町内の子供達にとって、身近でありながら遠い存在であるATR研究者と触れ合う機会が生まれれば、まさに「科学のまちの子供たち」として、精華町内の研究機関に対する将来雇用につながる可能性はあると思われます。



取組みの加速化に向けた新事業の検討

■コンセプトに基づいて、2017年度実施した内容

先述の将来コンセプトに照らし合わせた際に、2017年度実施した施策は下記の通りである。



2017年度実施した内容

精華町の住んでいる人・精華町で学ぶ人・精華町で働く人・精華町役場が一体となってクリエイター等と共に、精華町の魅力を伝えるような地域とのつながりを感じるソフトコンテンツを生み出す「共創」を意識した施策を実施

- ・京都共創ワークショップで「チームラボと考える未来の学研都市」コンテンツ作りの体験
- ・未来の学研都市をベースにイベントに来た親子で参加する「お絵描きワークショップ」の体験
- ・けいはんなあちゃんとスイーツのスタンプラリー体験
- ・科学のまちのこどもの理科実験体験・親子お絵かきワークショップ
- ・施策プロモーションページとFacebookイベントページやセイカちゃんSNS連携
- ・住民や働くひとのアンケート実施（施策外）

実施後の評価

【サブカル・コンテンツ】

・精華町は広報キャラクターとして「京町セイカ」というデジタルコンテンツ戦略にも取り組んでいて、いわゆる「お役所仕事」では実現しにくい施策を実施する柔軟さを有しているが、学研都市と精華町役場のブランド連携できていない

→けいはんなちゃんコンテンツ投入も時間がかかる。

・各大都市圏のベッタウンとして人口は増加傾向にあるが、全国と比べて優れた景観や遊興施設を有している訳ではなく、今後、観光地としての大きな発展を目指すのは得策ではないと思われる。→住宅環境と並行して教育環境向上のコンテンツ投入の検討

現状の兆し

【産業観光】海外エージェントとの商談会を行っており、とりわけ、インドのエージェントから教育旅行についての問い合わせが多く、学研都市地域である精華町は、教育旅行ニーズのあるインバウンドを誘致できる可能性がある

【農業振興】いちご狩りで摘んできたいちごを、オシャレな箱に詰めて宿泊先や町内の施設（図書館）などで食べられるようにする

- ・FacebookやInstagram等のSNSにおけるシェア増加が期待できる。
- ・お茶の京都DMO戦略やいちご栽培など地元農家との連携などを強化し受け入れ体制を構築していく
- ・世界最大のお茶の産地であるインド・アッサム州の農業者から、農業視察ツアーの問い合わせがある
- ・京都府立大学附属農場（精華町）や京都大学附属農場（木津川市）「テクノファームけいはんな」への視察ツアーの推進

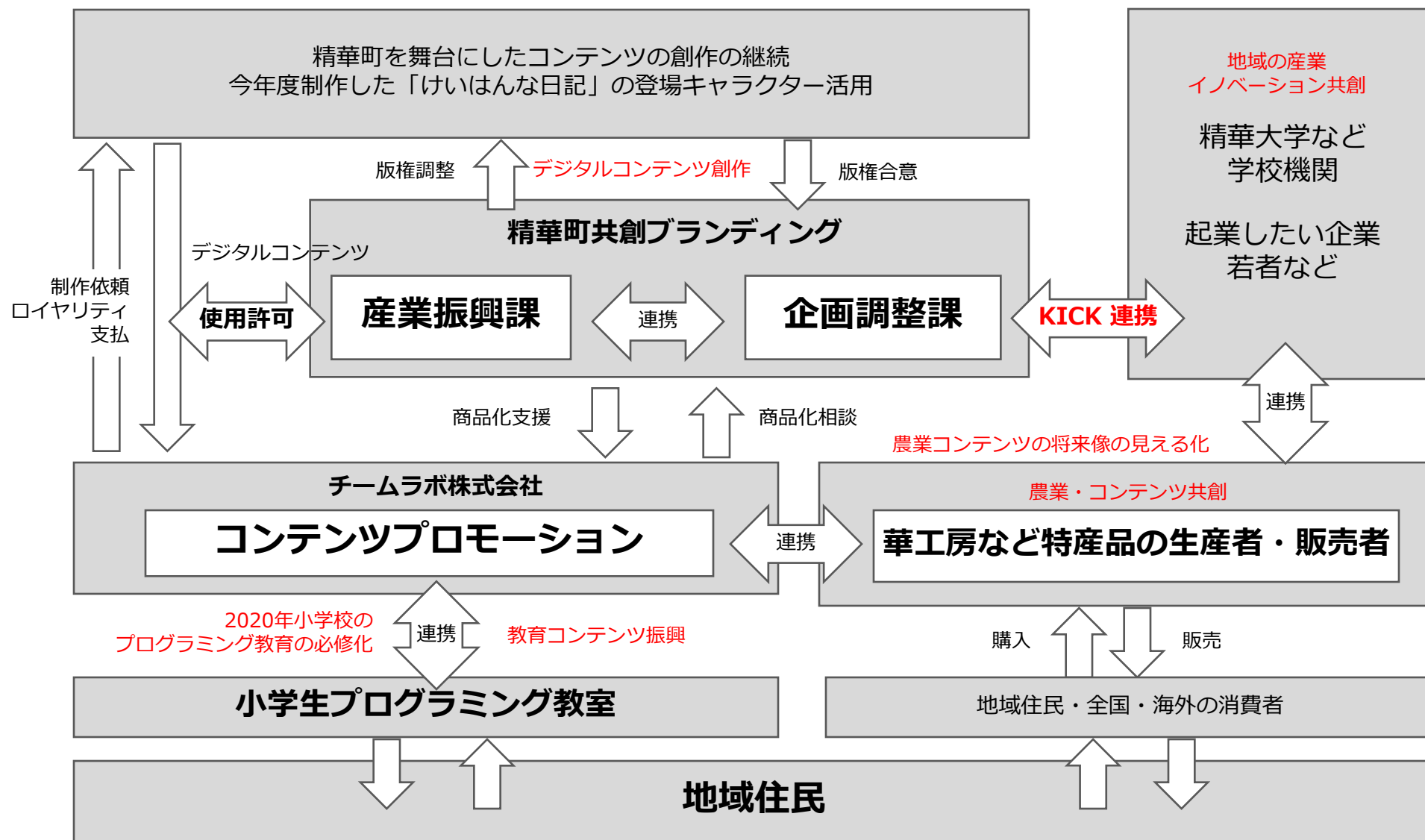
【インフラ観光】国立国会図書館や役場の図書館は精華町ならではのユニークなインフラ資源といえる。

今後の方向性

振興資源・コンテンツの関連付けを再構成し、ストーリーを創造し、地域の「過去のストーリー化」「現在のストーリー化」「地域の未来のストーリー化」3つの切り口でコンテンツ振興の物語創作をすすめる。

■ 将来コンセプトに基づいた、2018年度の事業プラン再構築

精華町にヒアリングしながら、再構築した平成30年度の施策案は下記の通りである。

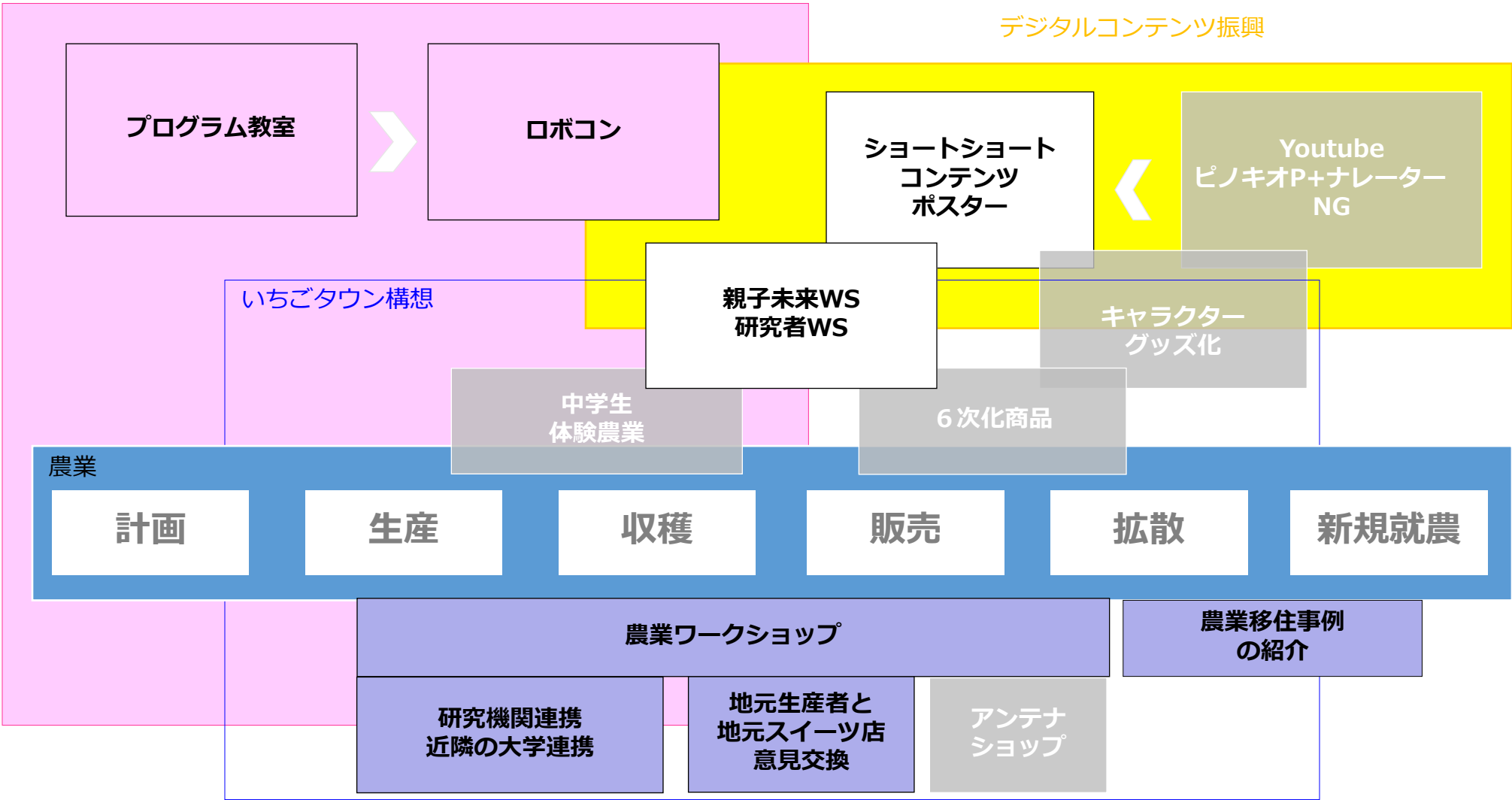


仕様書策定当初は、「教育の町としてのブランド構築」と「デジタルコンテンツ振興」を軸として検討する想定であったが、主力農産物である「いちご」を軸にした「いちごタウン構想」も希望されたため、今後は、その要素も加えて検討していく。

※灰色背景の部分：今年度は未実施（ペンディング）

教育の町としてのブランド構築

デジタルコンテンツ振興





◆取組みの加速化に向けた新事業のご提案
(教育の町としてのブランド構築を軸として検討)

けいはんな学研都市のモノづくり共創空間

学研都市の強み:京都・大阪・奈良のベッドタウンで多くの若い世代が子育てをする地域で人口増加
100社以上の研究機関が、けいはんな学研都市にある:国際電気通信基礎技術研究所 ATR・パナソニック・オムロン・SIMADZU・日本電産・大和ハウス・京セラ・・・

ペスタロッチの教育学「直観の原理」 教育学者「スイス国民教育の父」(1746年~1827年)

子どもがもつ直観と感情は能力であり、あらゆる事象や物事を認識し、知識として得ていくものである
子どもは純粹に自由に直観して感じるため、人間的、精神的、道徳的な文化全ての単純な要素になる
直観とはすべての認識の基礎であり、教育も同様に直感的でなくてはならないとされるのである
直観教育においては、直観によって受け取った曖昧な概念を明瞭なものにしていくことがもっとも重要

地域のこどもたちと若手
研究者で考える未来WS

地域農家の協力を得て
バイオ栽培・体験収穫

研究所は事業実証とし
て新商品開発を実施

地域のお店などで
商品のテスト販売



研究所・企業・工房・地域販売店などでテストマーケティングとものづくり体験教育が連携する。

学研都市の未来を大人が勝手に決めない。こどもの自主的な動きや意向で共に創る

地域の子供と住民と研究者が共創する未来ワークショップ
アイディア+研究・技術→検証→プロトタイプ→製品化



2019年4月からATRのコワーキングで実証実施しながら研究者交えた教室やワークショップ開催

2019年(夏)KICKにてVIVISTOPロボットキャンプ3週間実施(参加者体験・協賛企業見学)

2020年モノづくり空間の本格的可動を実現し学研都市研究とコラボレーションで事業化をサポート

画像出典 : <https://www.jst.go.jp/rc/>



学研都市の未来を研究者と子供と生活者が共に学んでモノづくりする空間

お絵かきタウンは周辺の地域の親子を集めます
集まった子どもたちの中から未来の研究者が育ちます。



★【(3)④b (ご提案)】チームラボお絵かきタウンのイメージ



未来のモノづくり教育ワークスペースイメージ



デザイン・プログラミングソフトウェア



プログラミング教育やロボット教室など利用できる空間になります
子ども達のものづくりに最適化されたアプリケーション・工具・機材
定期的にモノ作りキャンプを実施したりコンテストやイベント参加

APPENDIX

confidential



チームラボ 株式会社
TEAM★LAB Inc.

Tel: 03-5804-2356
email: info@team-lab.com
<http://www.team-lab.com/>

京都府精華町における 農業振興施策に関するご提案資料 (案)

平成30年7月
チームラボ株式会社



課題の整理

◆主な生産者



精華町特産の一つである「いちご」いちご狩りまで実施している生産者は、華やぎ観光農園と、ひろびろ苺ファームがあるが、目の前の農作業に追われて、あまり積極的な成長戦略を考察していない。

◆加工施設（研究施設）

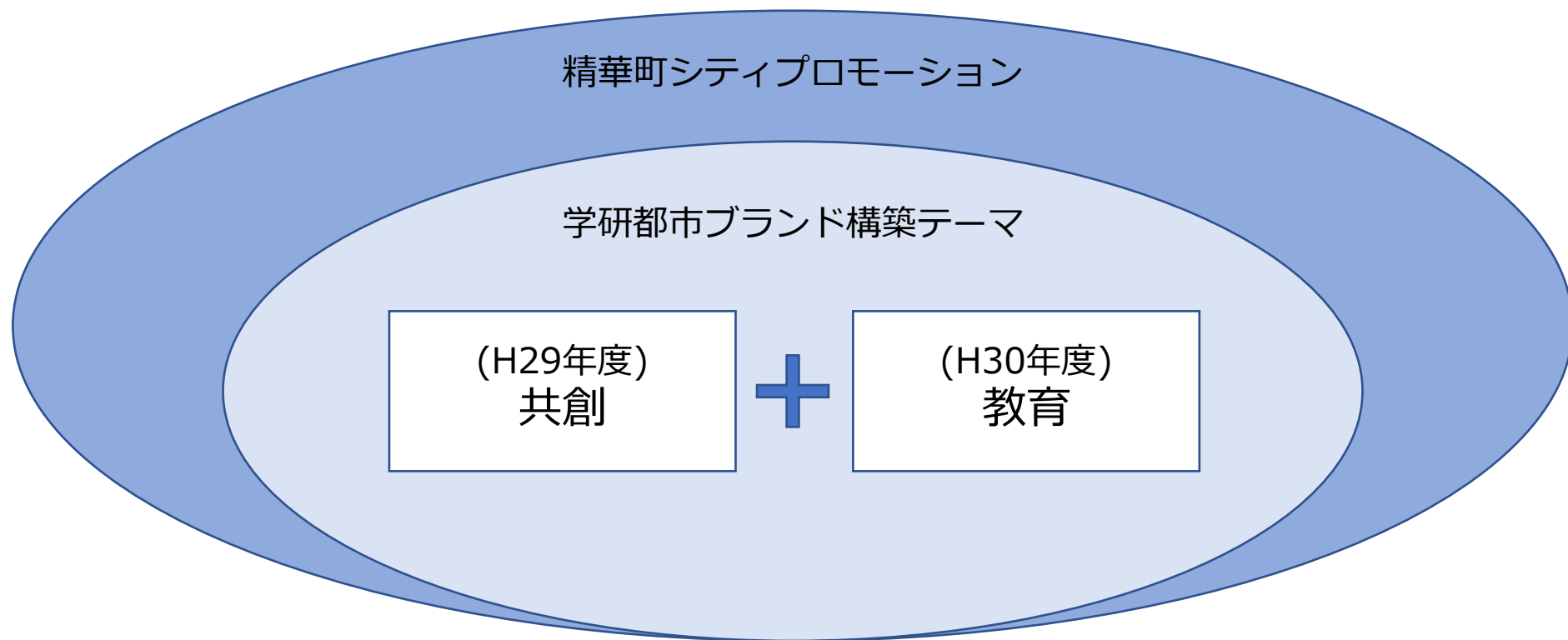


精華町地域資源総合管理センター「華工房」
今後、意欲がある民間業者などに任せたいが担い手がいない。

どのように活用していいかわからない

昨年H29年度のシティプロモーション施策のテーマとしては、「共創」を1つの軸に取り入れて地域住民や学生の声を取り入れた学研都市ブランド構築に取り組みました。

今年H30年度のシティプロモーション施策においては、学研都市ブランドを高めるために「教育」、「教育観光」といったテーマを軸に取り入れる予定。農業施策においても、そのテーマを活用したいと考えています。



たとえば、華やぎ観光農園には、近年、若手三人が加わった。
彼らの「やる気」を喚起させ、新しいチャレンジに対してあまり積極的ではない
現経営陣にプレゼンして少しずつでも前進したい。

そのために、平成30年度においては、
精華町内の中学生を巻き込んで、若手と中学生が作る精華町における農業振興案を策定し、
現経営陣や関係者にプレゼンする機会を設けて、次年度以降につなげたい。

平成30年度のイメージ

地域農家の若手と
地域中学生で企画



関係各所に対してプレゼンし
次年度の活動方針の根回し



あくまで地元の生産者との連携や関係各所との調整が必要になるが、単なる学生プレゼンで終わらせずに、企画→体験栽培→体験収穫→商品作り→体験販売といった流れを、華やぎ若手メンバー＆学生にも体感してもらい、その売上/利益をプールできる仕組みを構築したい。

次年度において後輩学生が同様の体験をできる活動費を少額であっても捻出できるような事業構築を目指したいと考えています。

平成31年度のイメージ

地域農家の若手と
地域中学生で企画



地域農家の協力得て
体験栽培・体験収穫



華工房を活用して
新商品開発を実施



マルシェなどで
新商品販売を実施



企画→生産→商品化→販売までの流れを地域中学生に体験してもらう。
町役場・華工房・生産農家・地域スイーツ店・地域販売店などが連携して、その体験教育をサポート。
販売により得た収益は、次年度の活動費にあてられたらベスト。

夏秋いちごの需要ヒアリング機会について

平成30年12月
チームラボ株式会社



①背景

テスト栽培する方向となった夏秋いちごは、いちご狩りでの収益を目指すよりもその希少性から販売にまわしたほうが収益が上がる可能性が高い。

②ヒアリング機会を設ける目的

夏秋いちごを多く仕入れてもらえる可能性があるのはスイーツ店。
特に関西圏は、仕入先が少ないとの見解もあり、スイーツ店が求める夏秋いちごを生産することで、継続的な販売体制の構築を目指せると考えています。

そのためにも、テスト栽培を始める前から、スイーツ店が求める夏秋いちご、ひいては冬いちごの内容を生産側が直接ヒアリングできる機会を設けたいと考えております。

③具体的な内容

＜ヒアリングテーマ＞

スイーツ店が求めるいちごとは

＜ヒアリング内容＞

- ・夏秋いちごの利用状況（輸入/国産の割合）
 - ・輸入/国産それぞれの産地、仕入先（市場経由/契約農家＜選定プロセス＞など）
 - ・夏秋いちごの発注量（開始月～終了月、各月の目安）、平均単価
 - ・比較として、冬いちごの発注量（開始月～終了月、各月の目安）、平均単価
 - ・夏秋いちごに求めること（味、価格、安定供給性のうち優先順位）、現状の不満点
 - ・冬いちごに求めること（味、価格、安定供給性のうち優先順位）、現状の不満点
 - ・精華町いちごのブランド化に向けてのアドバイス
- などを想定しています。

④ヒアリング先の候補

まずは京都銀行とつながりがある、いちごを使った京都府内の有名スイーツ店に訪問できないか打診していただく。後述するが、最終的には精華町内のスイーツ店と連携して、精華町産のいちごを盛り上げるのが目標だが、ある程度、名の通ったスイーツ店でテスト導入などをしていただいた方が、その流れは加速すると推測。

■あくまで参考例だが、いちごが有名な京都府内のスイーツ店まとめ記事

テーマから探す
京都で食べられる苺スイーツ♪【期間限定メニューも!】

ツイート いいね10

春と言えば苺が旬な季節です。
今しか食べられない、甘酸っぱい苺をふんだんに使った苺スイーツをご紹介します♪
期間限定で提供されているものもあるので、詳しくはお店のホームページやSNSをご確認ください。

フルーツバーラーサオイス

いちごづくし

住所
京都府下京区立中町 京都府京都市
下京区西条通り大宮東入ル立中町
48B

アクセス
阪急西条大宮駅から徒歩2分

TEL
075-841-0353

時間
9:30~17:00

L.O.
L.O.16:45

定休日
年末年始

Cafe&bar OXA by Japaning hotel

ストロベリーマウンテン (1100円)

住所
京都府京都市右京区西院南町70 ジヤパンニングホテル 1F

アクセス
阪急西院駅から徒歩7分

TEL
050-5592-9746 (予約専用番号)
075-925-5798 (お問い合わせ専用番号)

時間
10:00~20:00

定休日
不定休

ベルアメール 京都別荘

国産苺とチョコレートのミルフィーユ

住所
京都府京都市中京区三楽通御東入ル北側別荘66

アクセス
京都市営地下鉄「烏丸御池」駅徒歩7分
京都市営地下鉄「京都市役所前」駅徒歩10分

TEL
075-221-7025

時間
10:00~20:00

定休日
不定休

伊藤久石庵門 本店茶房

いちご抹茶パフェ (1166円)
抹茶+苺の簡単コラボ!

住所
京都府宇治市瓦町南19-3

アクセス
京阪宇治線「宇治駅」より徒歩5分
JR奈良線「宇治駅」より徒歩15分

TEL
0774-23-3955

時間
10:00~18:30

L.O.
18:00 (ラストオーダー)

定休日
无休

お昼後の目安
1,000~1,500円

京都京島 別荘小石 松園本店

春といしパフェ (1180円)

住所
京都府京島区松園町266-2

アクセス
京阪電車「松園町駅」7番出口から徒歩5分
阪急電車「河原町駅」1A出口から徒歩6分

TEL
075-531-0331

時間
10:30~19:00

L.O.
18:00

定休日
無休

オススメ
わがままパフェ(970円)

リプトン三条本店

あまおう苺とレアチーズのパフェ (1280円)

住所
京都府中京区寺町通三条東入ル

アクセス
京阪鴨東線三条駅より徒歩7分

TEL
075-221-3691

時間
10:00~21:30

吉祥菓業 松園本店

春苺苺パフェ (1296円)
5月までの期間限定の苺たっぷりパフェ

住所
京都府京島区古門前通大宮東入ル石橋町306

アクセス
市バス「松園別荘」よりすぐ
地下鉄「東山駅」より徒歩3分

TEL
075-708-5608

時間
10:00~19:00

FRUIT&PARLOR クリケット

イチゴパフェ

画像出典: http://www.kyotodekuraso.com/k/strawberry_sweets

⑤ヒアリング日時、場所

ヒアリング協力の可否を含めて、候補先とは具体的にはこれから交渉しますが、時期は、クリスマスやバレンタインの季節は避けて1月下旬/2月下旬～3月上旬を想定。場所は、全国の苺をどのように扱っているかを生産者側にも見ていただくのが良いかと考え、まずはヒアリング先のお店でのヒアリングが可能か打診予定。夏秋いちごのテスト栽培が進んできた段階で、今度は現場に来ていただくことも打診したい。

⑥ヒアリングメンバー

先方の代表も若い方であり、華やぎさんにも若い担い手がいることをアピールしたい。ですので、若手2名を中心にしながら、ベテランの方にも同行いただいてサポート頂ければ。

⑦ヒアリング機会を開催後の展開

＜ヒアリング先と夏秋いちご販売に向けた具体的プランの交渉＞

上述の通り、まずは見学に来ていただいて商品化につながると判断いただけるようならテスト的にでも良いので、夏秋いちごを仕入れていただき、新商品開発を検討いただく。初年度から良い苺が作れない場合は、加工品としての利用も相談する。

＜精華町内のスイーツ店への波及＞

やはり精華町内のスイーツ店と、しっかり連携が取れるのがベスト。ヒアリング先との交渉内容をベースに、精華町内のスイーツ店へもアプローチする。ただし、生産量にも限りがある話なので、一緒に精華町いちごを盛り上げてくれる気概のあるお店から優先的にアプローチしていきたい。このあたりは、精華町産業振興課とも協議を重ね、初期アプローチの候補店を絞っていきたいと考えています。

2018年度は、「学研都市ブランドを活かしたシティプロモーション（サブカルチャー振興）による産業振興・観光振興施策の実践」として、①地域密着イベント・プロモーション、②調査・プロモーションを実施するとともに、③産業・観光創出、④将来の雇用・観光創出を目指すための関連産業振興にかかる施策の提案や検討を行いました。

①～④については、チームラボが中心となり各種の取組みを実施、施策の提案・検討を行うなか、京都銀行も精華町のシティプロモーション・企業誘致において、下記の取組みを実施しました。

- (1) 全国地方銀行協会が発刊した冊子「想いが動かす地方創生」に、精華町の事例を掲載いただいております。冊子は全国64の地方銀行を通じて広く配布されるとともに、京都銀行でも府内自治体ならびにDMOや関係機関に配布しております。
また、冊子発刊後には内閣府（まち・ひと・しごと創生本部）からも問い合わせがあり、その際にRESAS活用の好事例として庁内報告している旨の連絡を受けております。
- (2) 精華町の魅力発信事業として、京都銀行従業員組合主催で「華やぎ観光農園」へのいちご狩りツアー（定員200名）を新たに企画しました。
- (3) 地元誘客イベントへの協力として、国際自転車ロードレース「ツアー・オブ・ジャパン京都ステージ」において、初回大会よりスポンサー協賛を実施するとともに、各営業店によるイベント周知等で協力しております。
- (4) けいはんなプラザ北側土地における事業者の公募にあたり、各種支援を行う中でホテル進出の実現に貢献しております。
- (5) 2018年10月に「京銀・東証イノベーションミーティング」を開催し、上場企業50社・60名を誘致し、けいはんなでの最先端技術の研究や各種取組みを紹介するとともに、同地区に入居する研究開発系・技術系ベンチャー企業との「出会いの場」を提供しました。

参加企業のけいはんな学研都市への評価は総じて高く、「将来、精華町（けいはんなエリア）に本社や事業所を移転・進出したいか」について、「そう思う（条件による含む）」と回答した企業は3社ありました。

東証からも第二弾の開催可能性の示唆を受けております。

一方、④将来の雇用・観光創出を目指すための関連産業振興については、精華町では子育て世代が多く常住していること、学校教育や学術・研究開発機関の従業者が多いことなどから、教育の町としてのブランド構築を軸とした新事業が考えられます。

教育の町としてのブランド構築を軸とする取組みとして、例えば、けいはんな学研都市の未来を研究者と地域の親子が、共に学んでモノづくりをする空間を整備することが考えられます。こうした取組みを行い、地域に誇りを持つ教育を推進することで、更なる精華町の魅力発信”シティプロモーション”につながっていくことが期待されます。